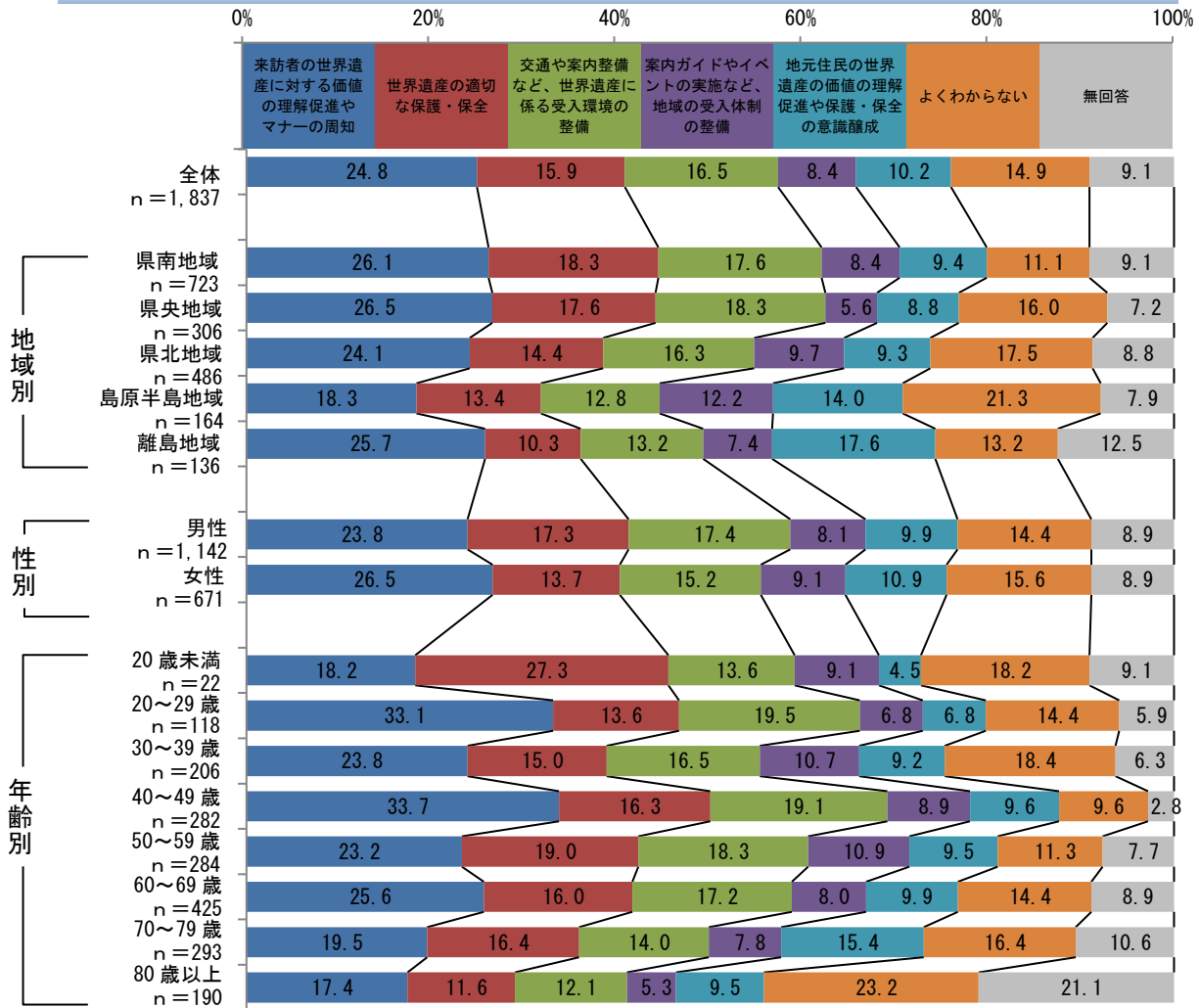


問 31

長崎には、2つの世界遺産がありますが、今後、世界遺産を活かした各地域での観光地づくりや国内外からの誘客を図る取組が進むなかで、特に配慮すべきと思うことはありますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

世界遺産を活かした観光地づくりなどの取組で特に配慮すべき事項の1位は「来訪者の世界遺産に対する価値の理解促進やマナーの周知」



【全体】

世界遺産を活かした観光地づくりなどの取組で特に配慮すべき事項は、「来訪者の世界遺産に対する価値の理解促進やマナーの周知」が24.8%で最も多く、次いで「交通や案内整備など、世界遺産に係る受入環境の整備」「世界遺産の適切な保護・保全」と続いている。

【地域別】

地域別での傾向の相違は、県南地域では「世界遺産の適切な保護・保全」、島原半島地域では「地元住民の世界遺産の価値の理解促進や保護・保全の意識醸成」が2位の項目に上がっており、県央地域・県北地域・島原半島地域は「よくわからない」の回答が約2割となっている。

【性別】

性別で傾向の相違は見られない。

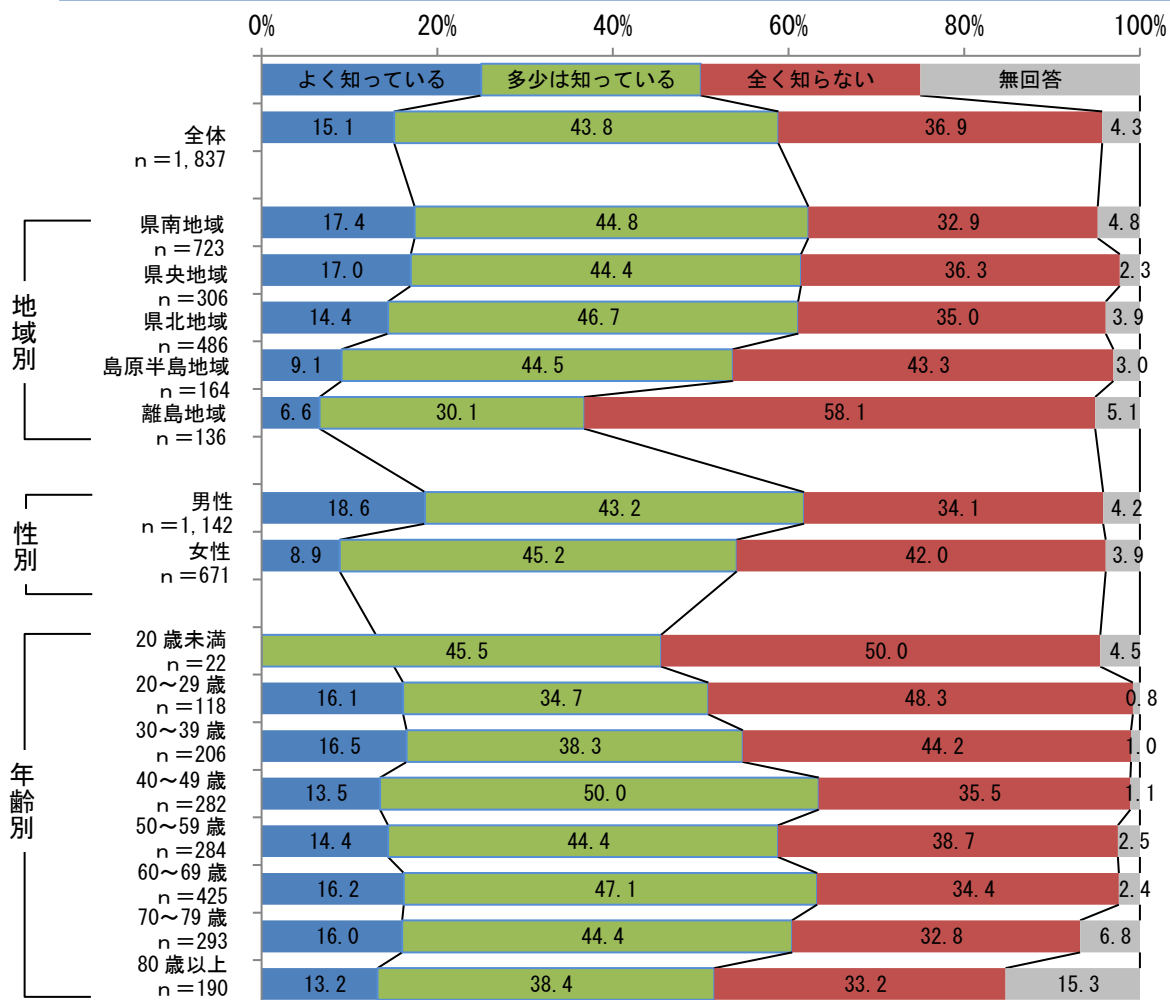
【年齢別】

年齢別ではやや傾向の違いが見られ、全体との相違は20歳未満では「世界遺産の適切な保護・保全」が1位となり、50歳代・70歳代で「世界遺産の適切な保護・保全」が2位となっている。

現在長崎県において「特定複合観光施設（IR）」の導入に向けた取組を行っていることをご存知ですか。（〇は1つ）

【調査結果（ポイント）】

I Rの導入に向けた取組の認知度は約6割



〔全体〕

I R<sup>1</sup>の導入に向けた取組については、「多少は知っている（聞いたことはある）」が43.8%で最も多く、認知度（「よく知っている」+「多少は知っている（聞いたことはある）」）は58.9%であった。

〔地域別〕

地域別での傾向の相違は、離島地域で「全く知らない」が58.1%で最も多くなっている。認知度は、県南地域が62.2%で最も高く、次いで県央地域・県北地域となっている。

〔性別〕

性別で傾向の大きな相違は見られないが、認知度は男性が7.7ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

年齢別での傾向の相違は、20歳未満・20歳代・30歳代では「全く知らない」が1位となっている。認知度は40歳代が63.5%で最も高く、次いで60歳代、70歳代と続いている。

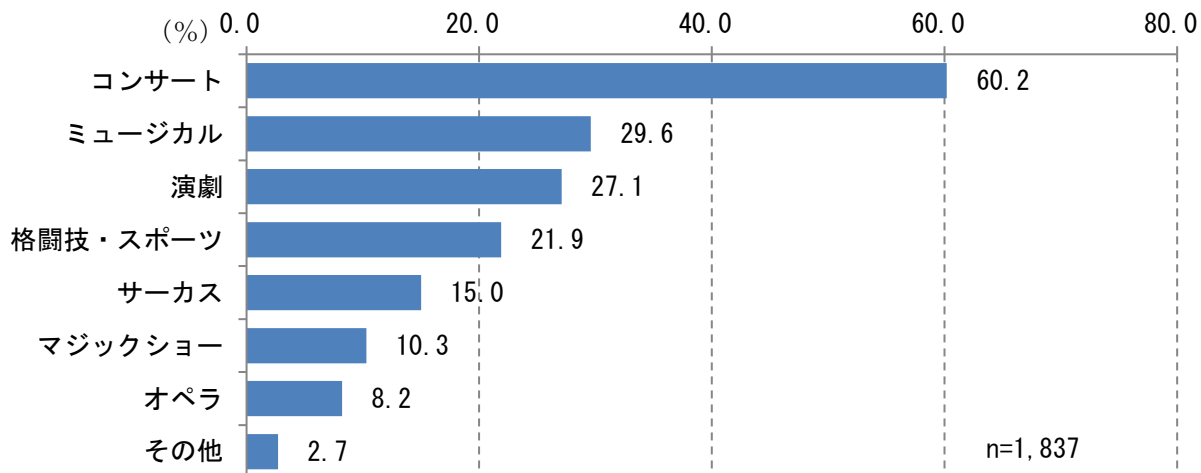
<sup>1</sup> IR…国際会議場や展示場、エンターテインメント施設、ホテル、カジノなどが一体となった観光施設。

問 33

海外の「特定複合観光施設（IR）」には、劇場なども併設されていますが、長崎県内に導入された場合に、どのような催しを期待しますか。  
（〇はいくつでも）

【調査結果（ポイント）】

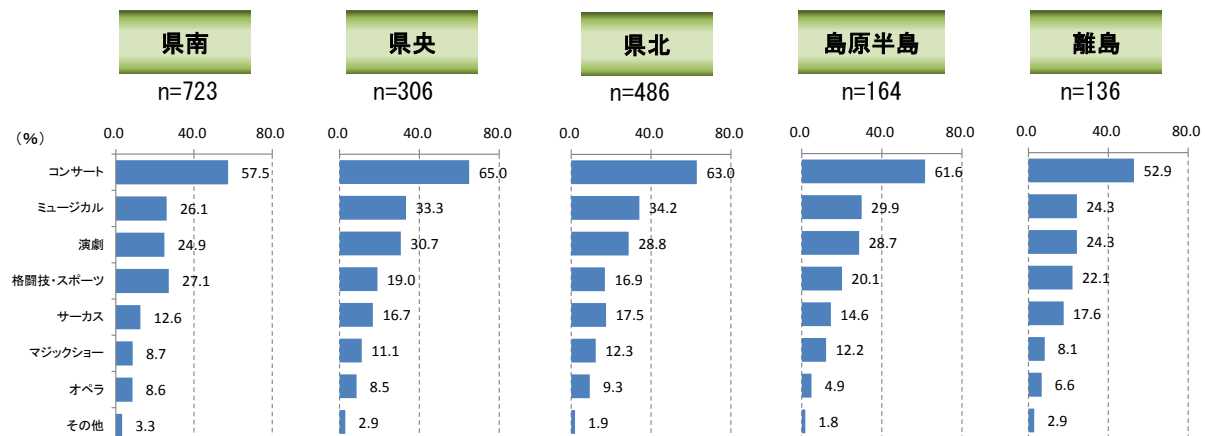
IR施設での催しに対する期待は「コンサート」が約6割でトップ



【全体】

IR施設での催しに対する期待は、「コンサート」が60.2%で最も多く、次いで「ミュージカル」「演劇」と続いている。

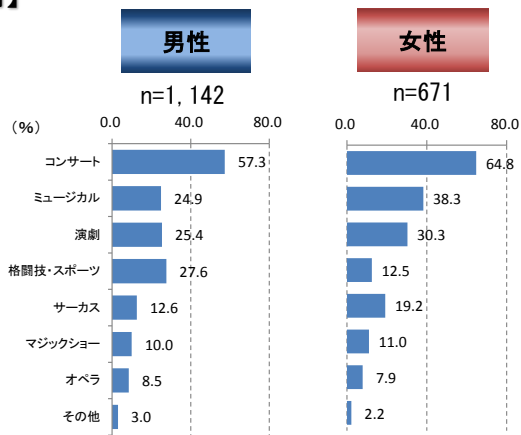
【地域別】



【地域別】

上位5項目で地域別により全体結果と傾向の相違が見られるのは、県南地域で「格闘技・スポーツ」が2位に上がり、県北地域で「格闘技・スポーツ」が5位、「サーカス」が4位と順位が入れ替わっている。

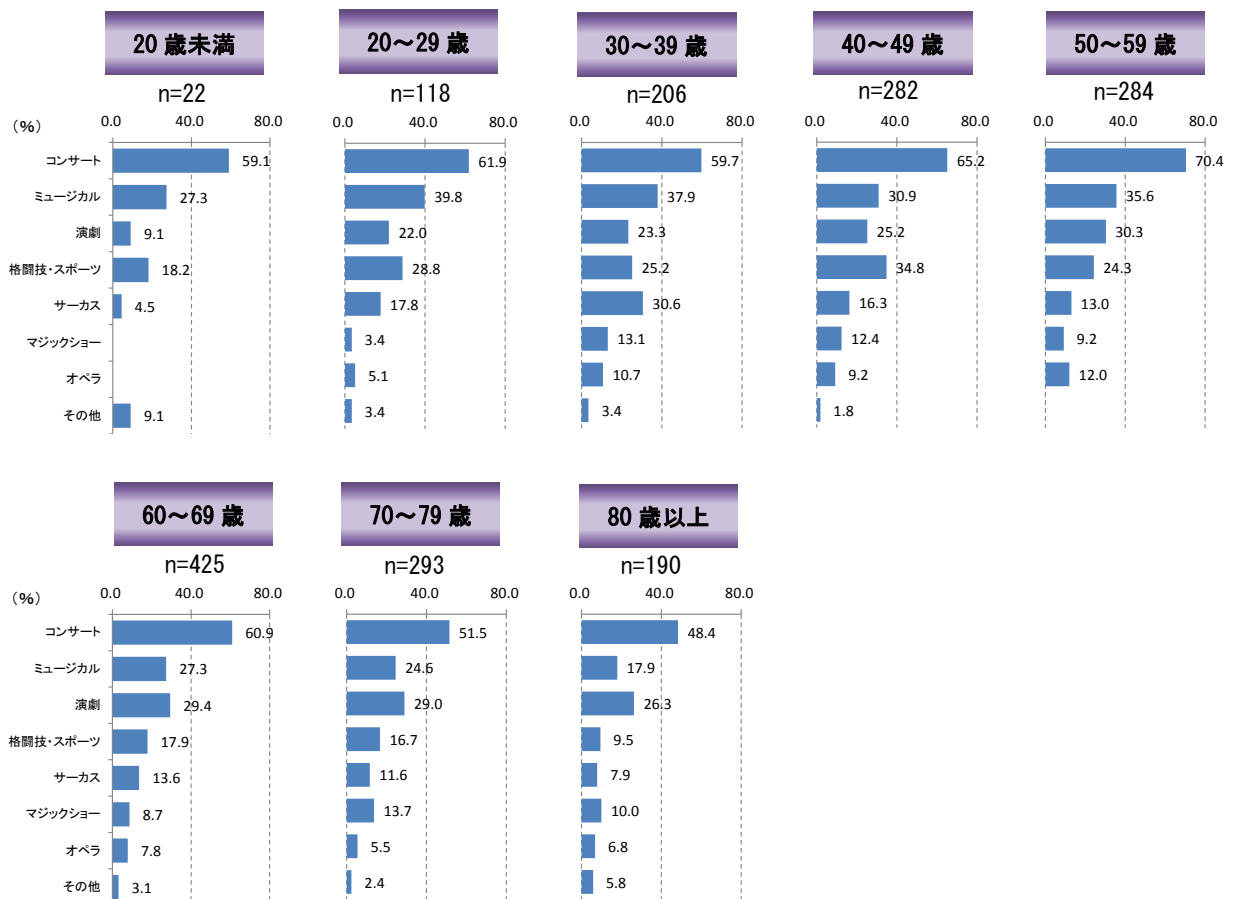
## 【性別】



## 〔性別〕

性別で傾向の相違は、男性は「格闘技・スポーツ」が2位に順位を上げ、「ミュージカル」が4位に下がっており、女性は「格闘技・スポーツ」が5位、「サーカス」が4位と順位が入れ替わっている。

## 【年齢別】



## 〔年齢別〕

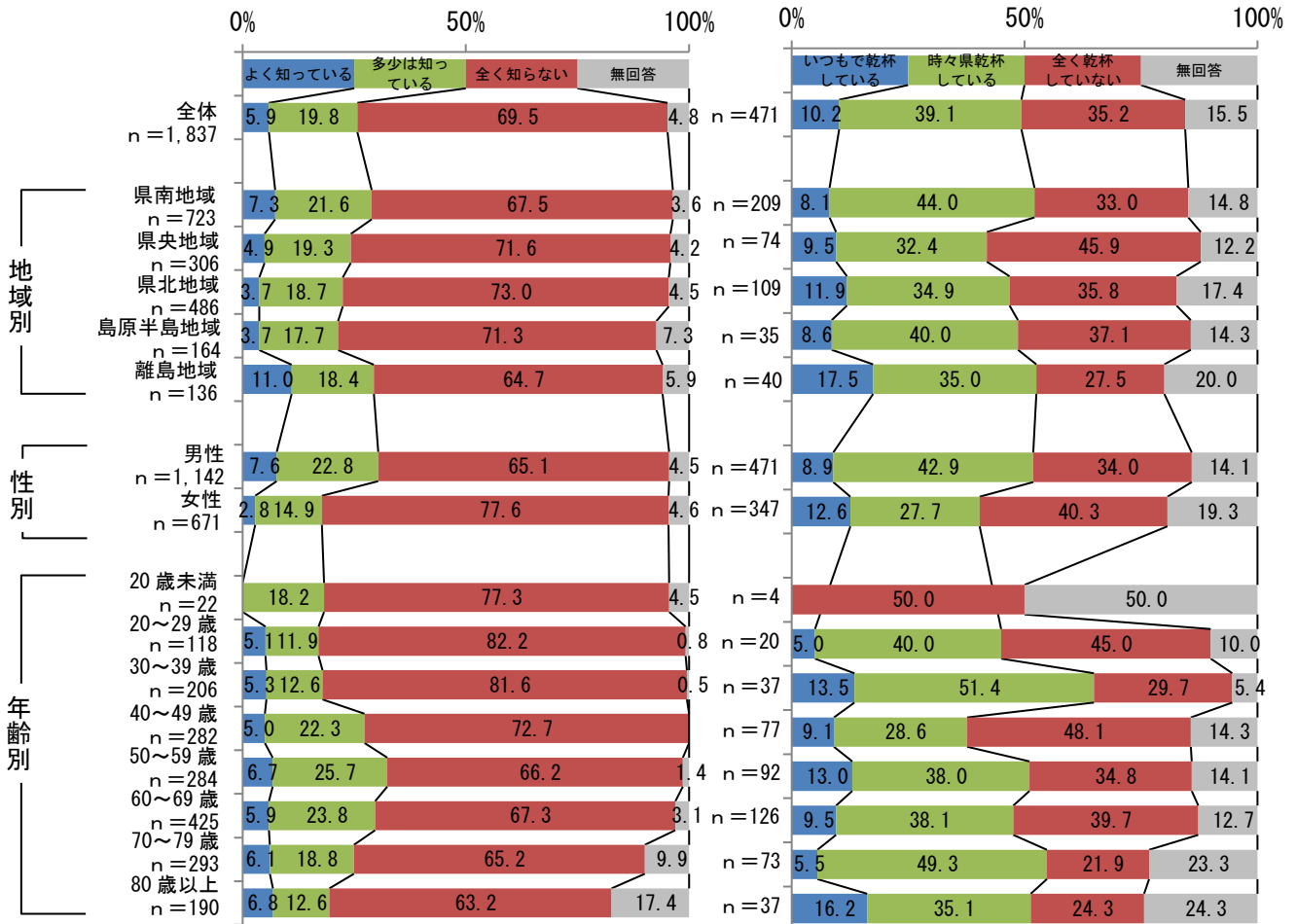
年齢別では傾向が異なっており、20歳未満・20歳代で3位に「格闘技・スポーツ」が入り、30歳代は3位に「サーカス」が入っている。また、40歳代は「格闘技・スポーツ」が2位に上がり、60歳以上では2位に「演劇」が入っている。

# 【県産品の利用について】

問 34 県では、県産品愛用推進の一環として、平成 27 年 12 月に「長崎県産酒による乾杯の推進に関する条例」を施行しました。この条例をご存知でしたか。また、県産酒で乾杯をしていますか。(〇は1つ)

## 【調査結果 (ポイント)】

条例の認知度は約3割、認知者のうち約5割が乾杯に活用



### 〔全体〕

条例については、「全く知らない」が 69.5%で最も多く、認知度（「よく知っている」+「多少は知っている（聞いたことはある）」）は 25.7%であった。

また、認知者のうち乾杯の活用は、「時々県産酒で乾杯している」が 39.1%で最も多く、乾杯に活用（「いつも県産酒で乾杯している」+「時々県産酒で乾杯している」）は 49.3%となっている。

### 〔地域別〕

地域別での認知度は、離島地域が 29.4%で最も高く、次いで県南地域・県央地域と続いている。また、乾杯の活用でも離島地域が 52.5%で最も高く、次いで県南地域・島原半島地域と続いている。

### 〔性別〕

性別の認知度では、男性 30.4%、女性 17.7%と男性が 12.7ポイント高くなっている。また、乾杯の活用でも、男性 51.8%、女性 40.3%と男性が 11.5ポイント高くなっている。

### 〔年齢別〕

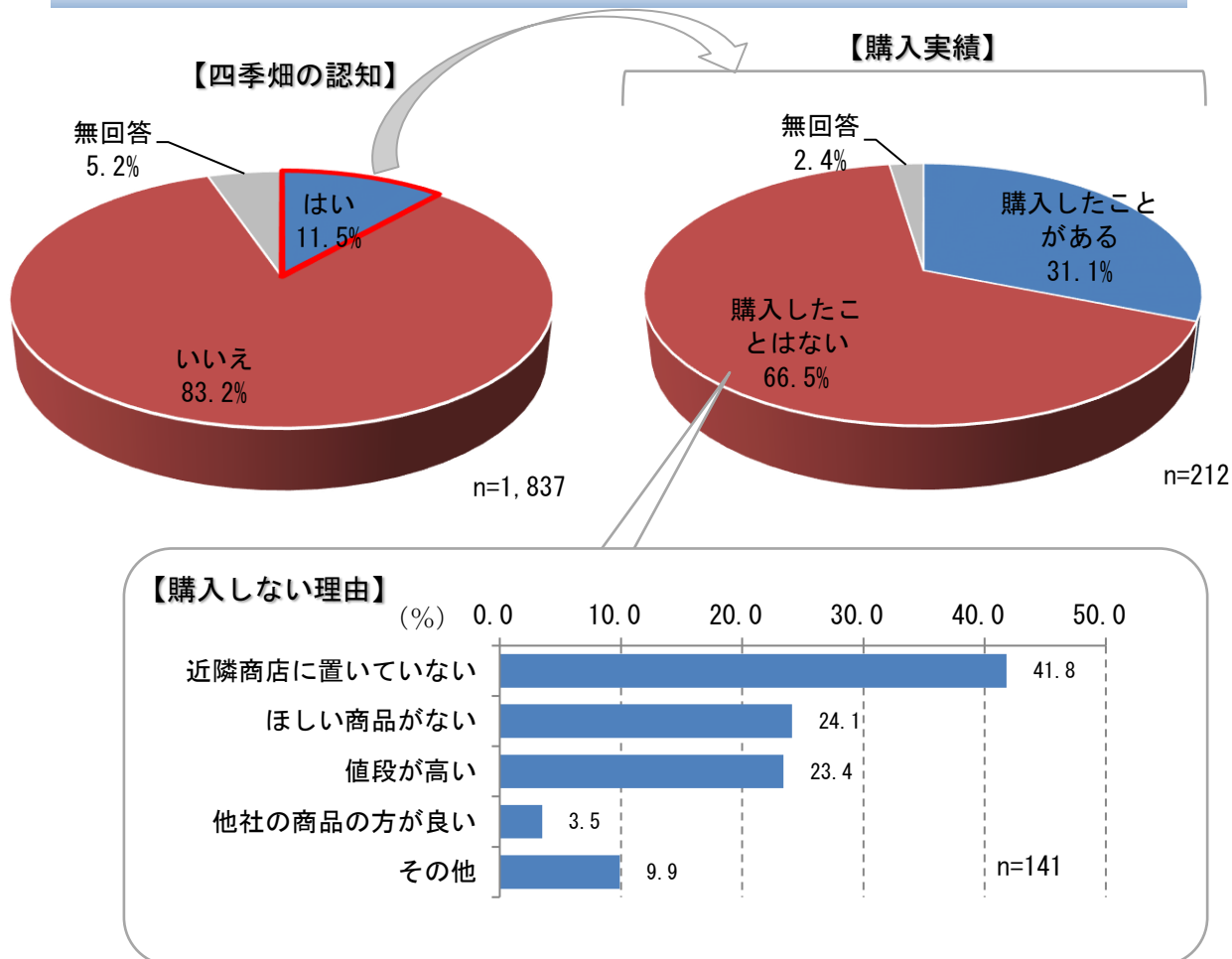
年齢別の認知度は 50歳代が 32.4%で最も高く、次いで 60歳代、40歳代と続いている。

問 35

あなたは、長崎ブランド農産加工品「長崎四季畑」という認証制度を知っていますか。  
(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

「長崎四季畑」の認知度は約1割、そのうち商品購入者は約3割  
未購入の理由は「近隣商店に置いていない」が約4割でトップ



〔全体〕

長崎四季畑の認証制度について、「いいえ (知らない)」が83.2%で認知度は低い。

また、認知者のうち「購入したことはない」は66.5%となっており、その理由として、「近隣商店に置いていない」が41.8%で最も多く、次いで「ほしい商品がない」「値段が高い」となっている。

〔地域別〕

地域別での認知度は、県央地域が14.4%で最も高く、次いで県南地域・離島地域と続いている。

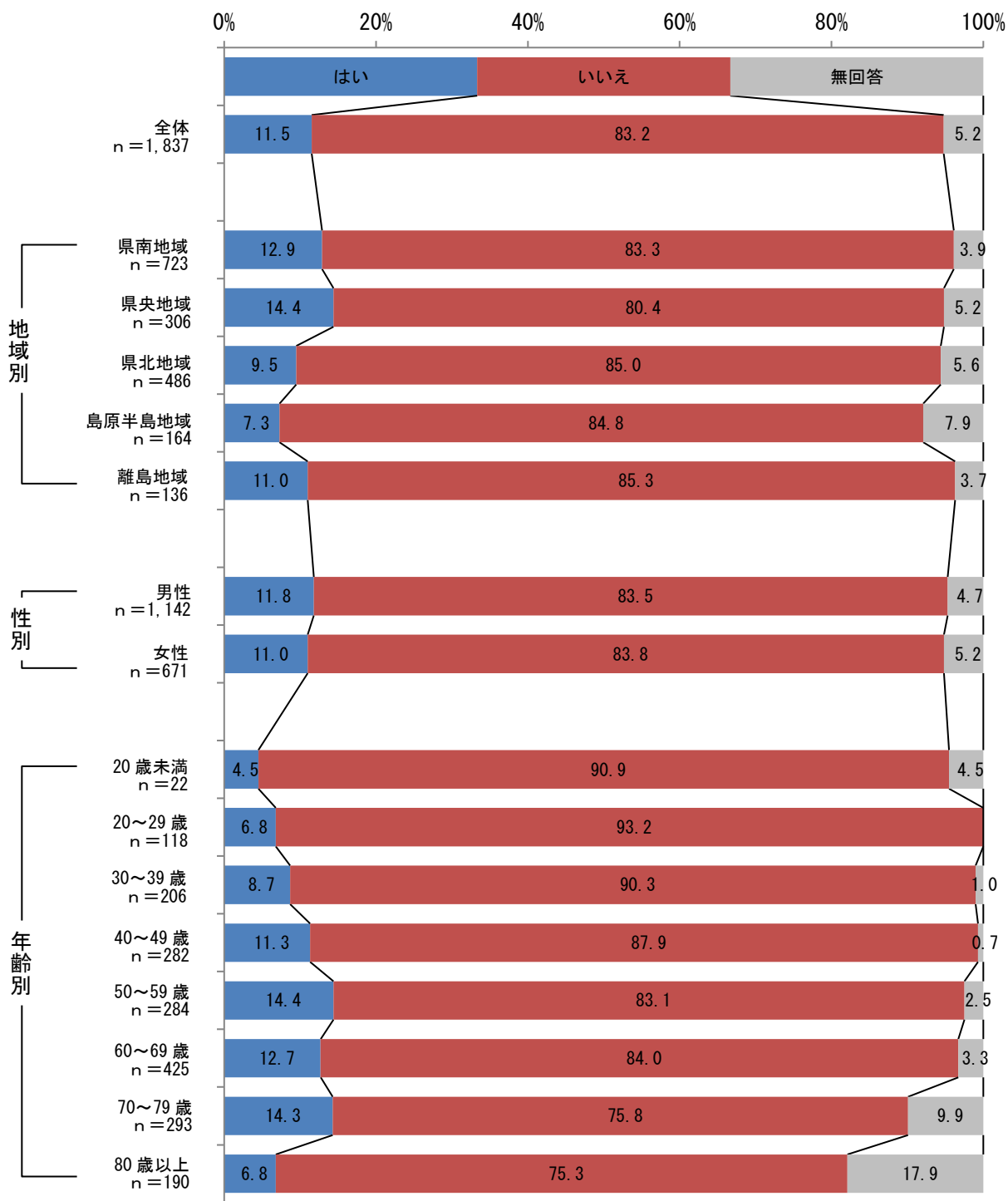
〔性別〕

性別の認知度では、男性、女性ともほとんど変わらない。

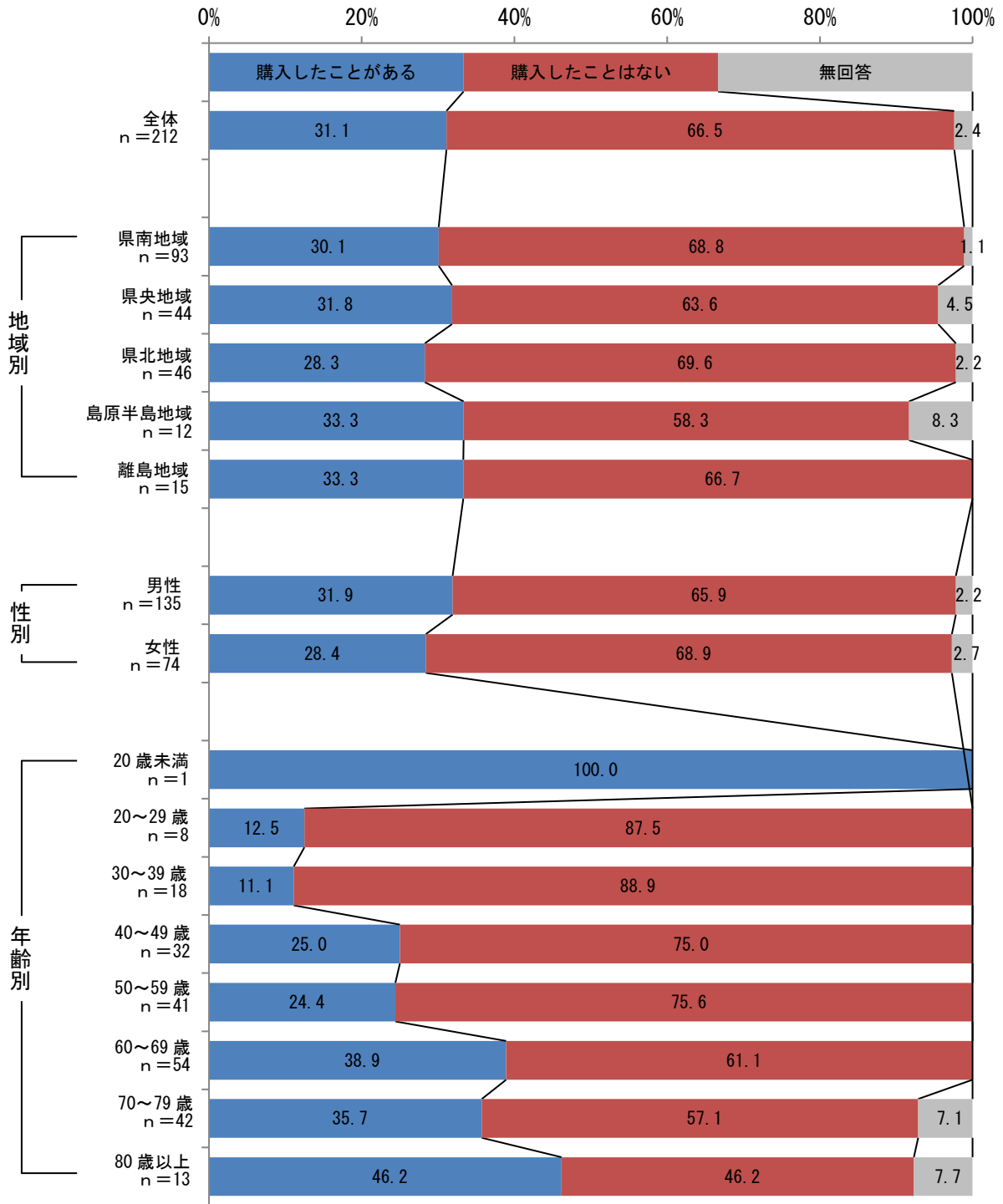
〔年齢別〕

年齢別の認知度は50歳代が14.4%で最も高く、次いで70歳代、60歳代と続いている。

〔認証制度「長崎四季畑」の認知〕



【「長崎四季畑」の商品購入】

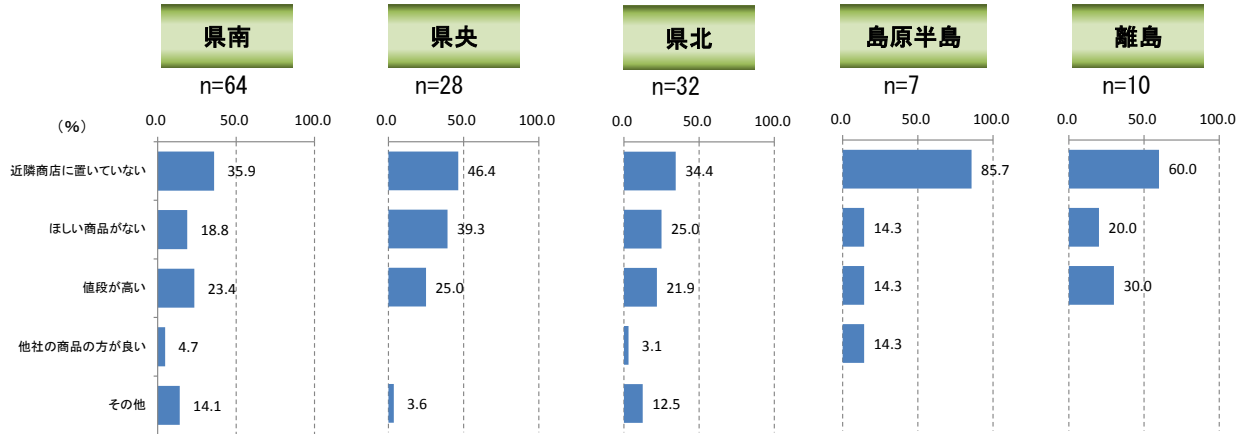


※購入実績・未購入理由は母数が少ないため参考掲載

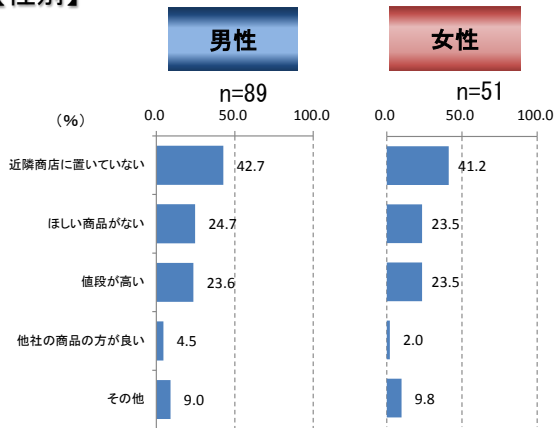


〔「長崎四季畑」の商品未購入理由〕

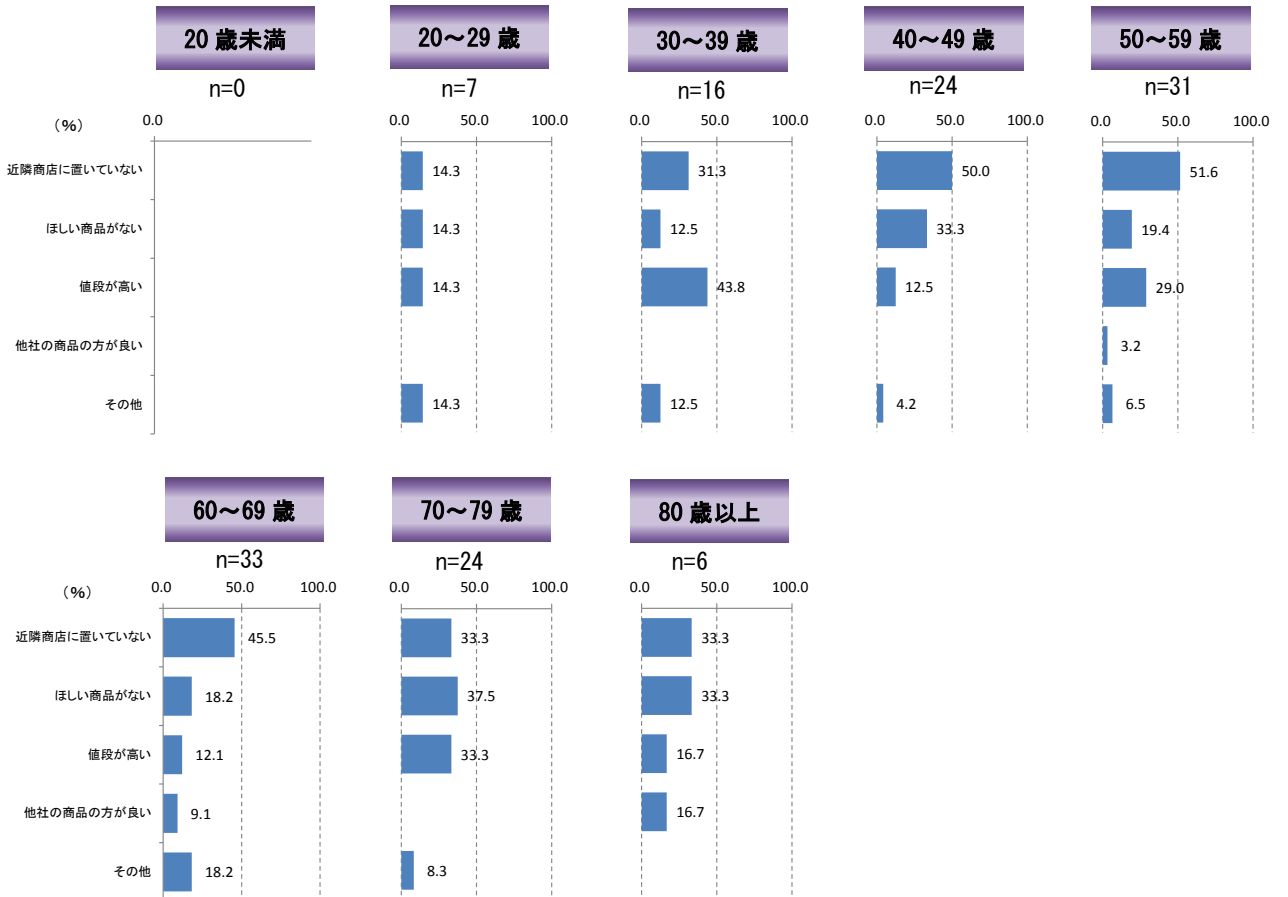
【地域別】



【性別】



【年齢別】

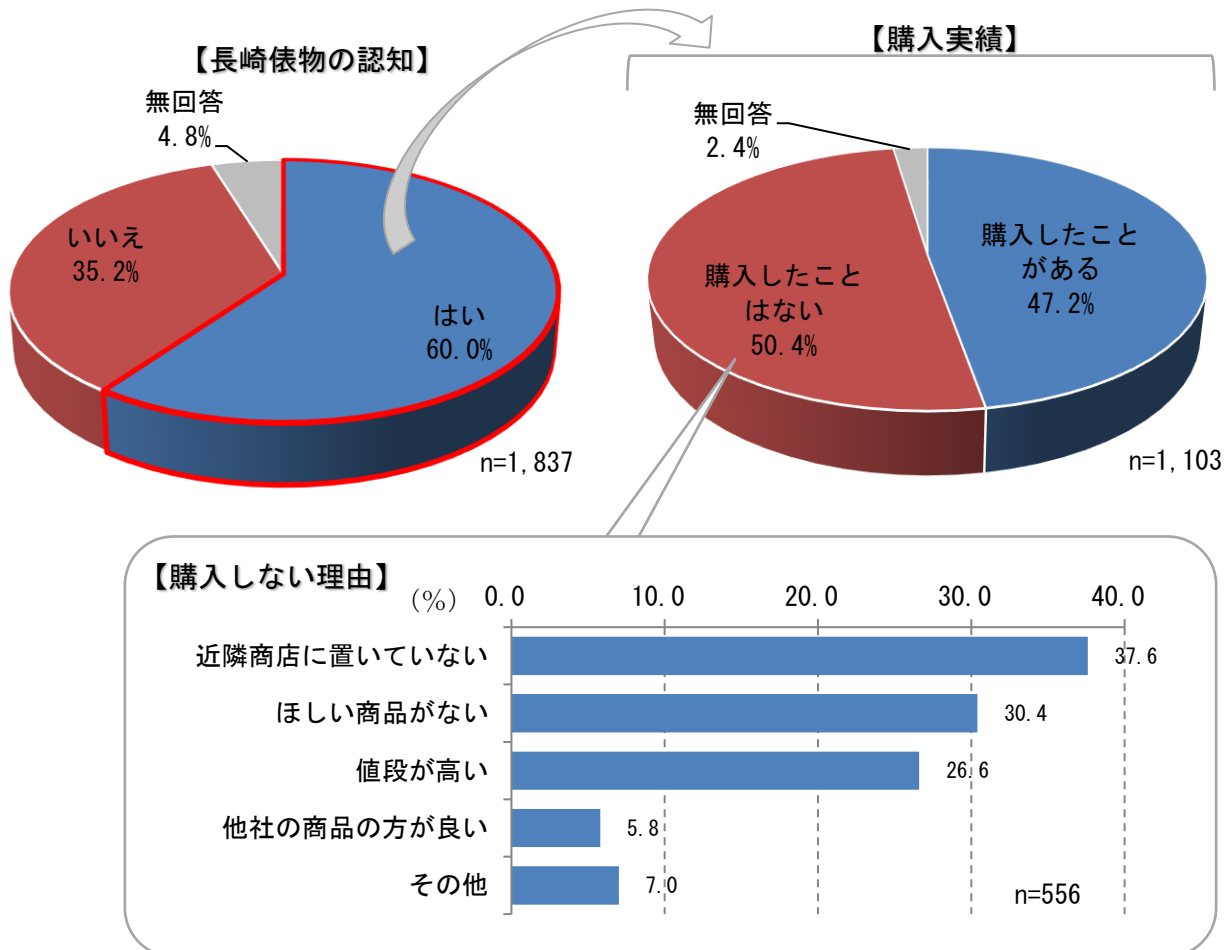


問 36

あなたは、長崎ブランド水産加工品「長崎俵物」という認証制度を知っていますか。  
(○は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

「長崎俵物」の認知度は6割、そのうち商品購入者は約5割  
未購入の理由は「近隣商店に置いていない」が約4割でトップ



【全体】

長崎俵物の認証制度について、「はい (知っている)」が60.0%で認知度は高い。

また、認知者のうち「購入したことはない」は50.4%となっており、その理由として、「近隣商店に置いていない」が37.6%で最も多く、次いで「ほしい商品がない」「値段が高い」となっている。

【地域別】

地域別での認知度は、県南地域が68.6%で最も高く、次いで県央地域・県北地域と続いている。

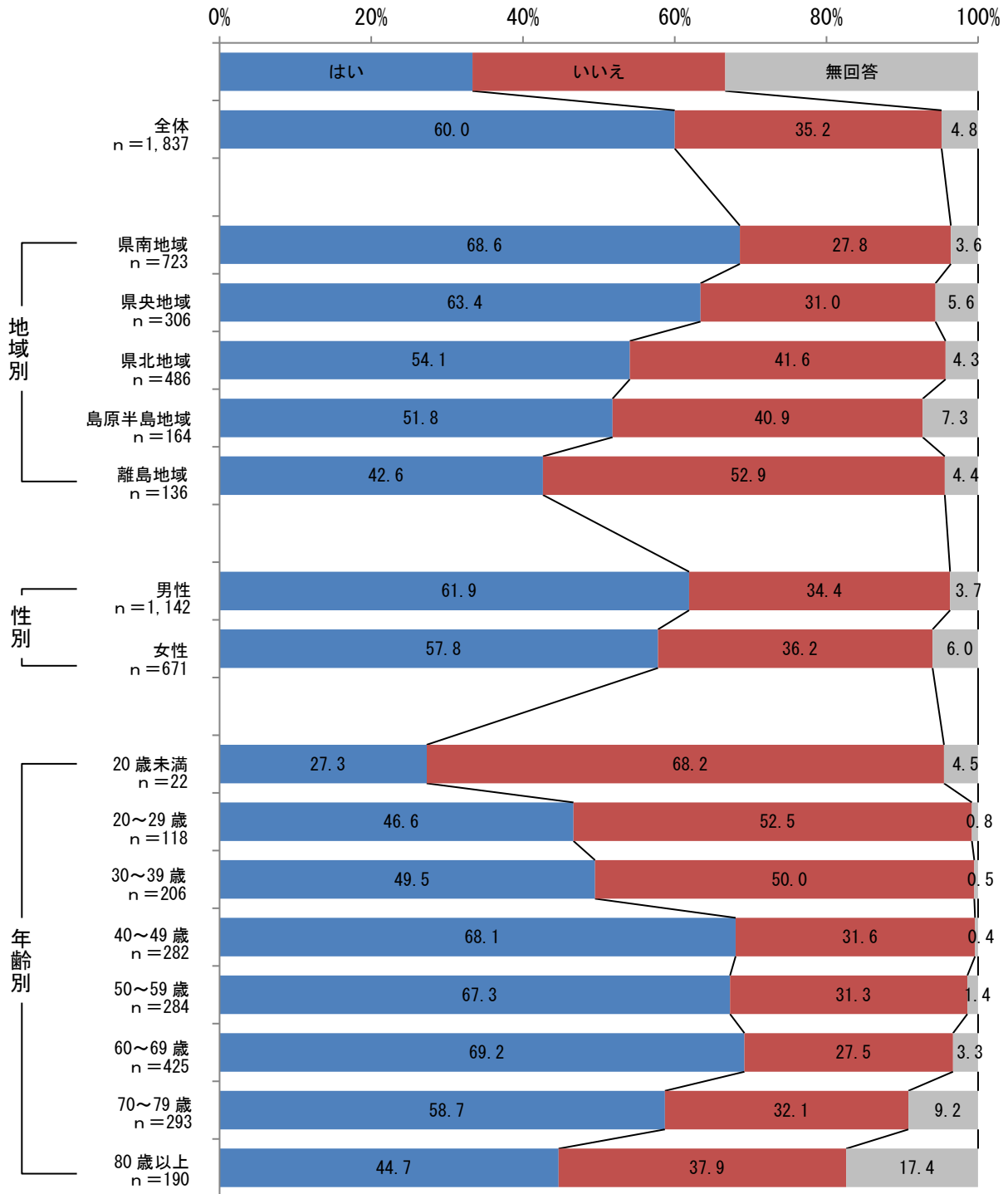
【性別】

性別の認知度では、男性61.9%、女性57.8%と男性が4.1ポイント高くなっている。

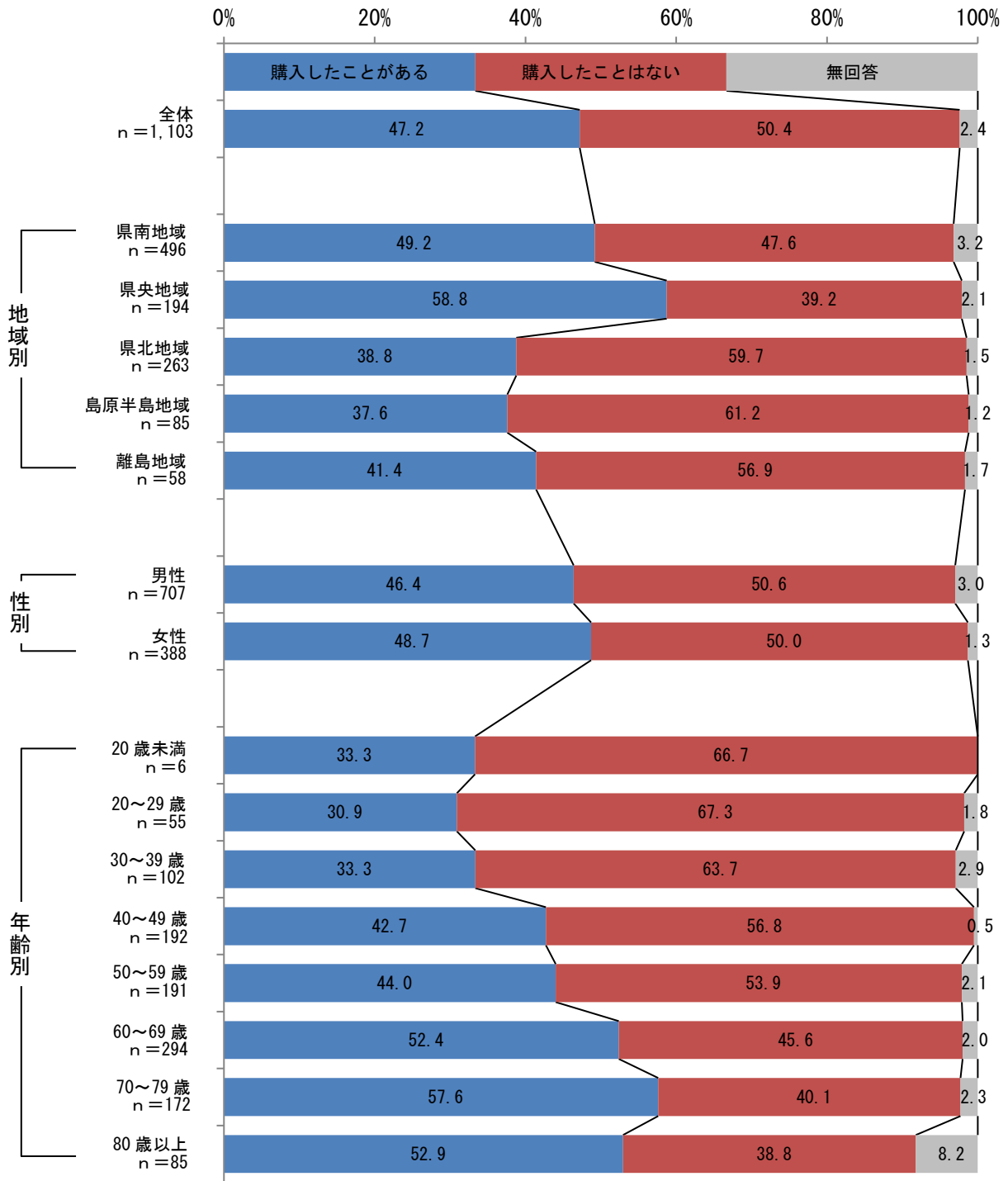
【年齢別】

年齢別の認知度は60歳代が69.2%で最も高く、次いで40歳代・50歳代と続いている。

〔認証制度「長崎俵物」の認知〕



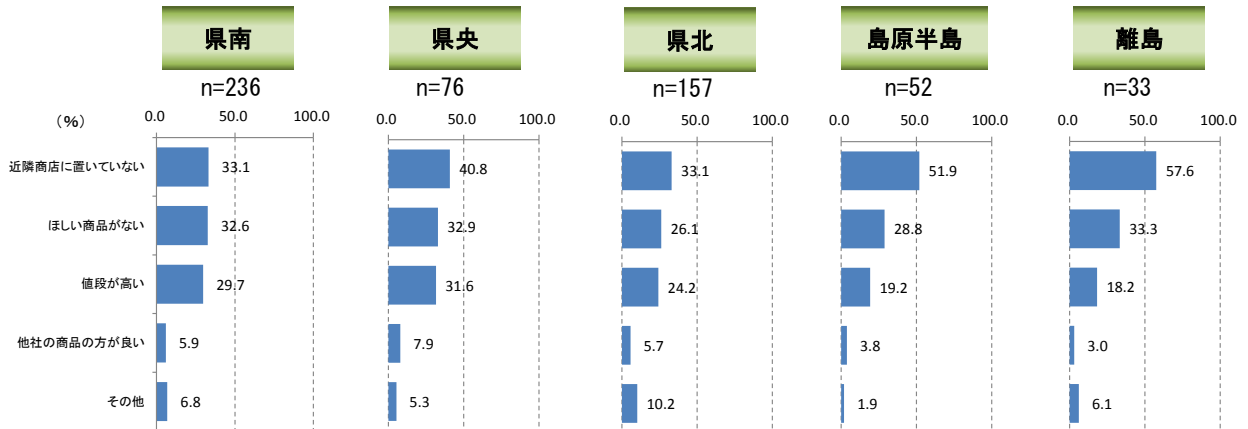
【「長崎俵物」の商品購入】



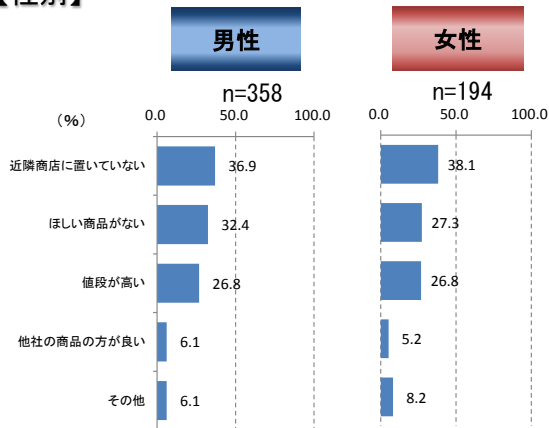
※購入実績・未購入理由は母数が少ないため参考掲載

〔「長崎俵物」の商品未購入理由〕

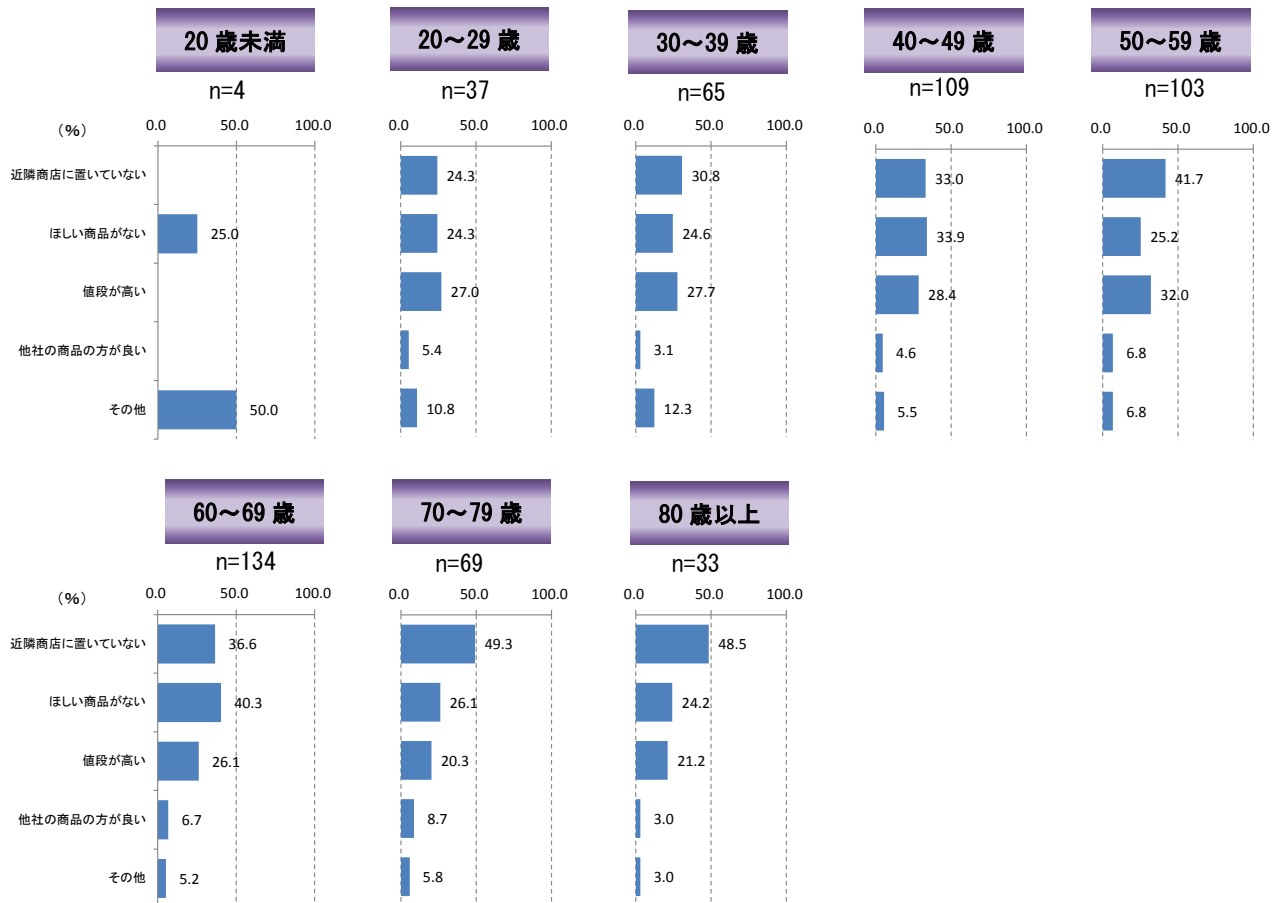
【地域別】



【性別】



【年齢別】

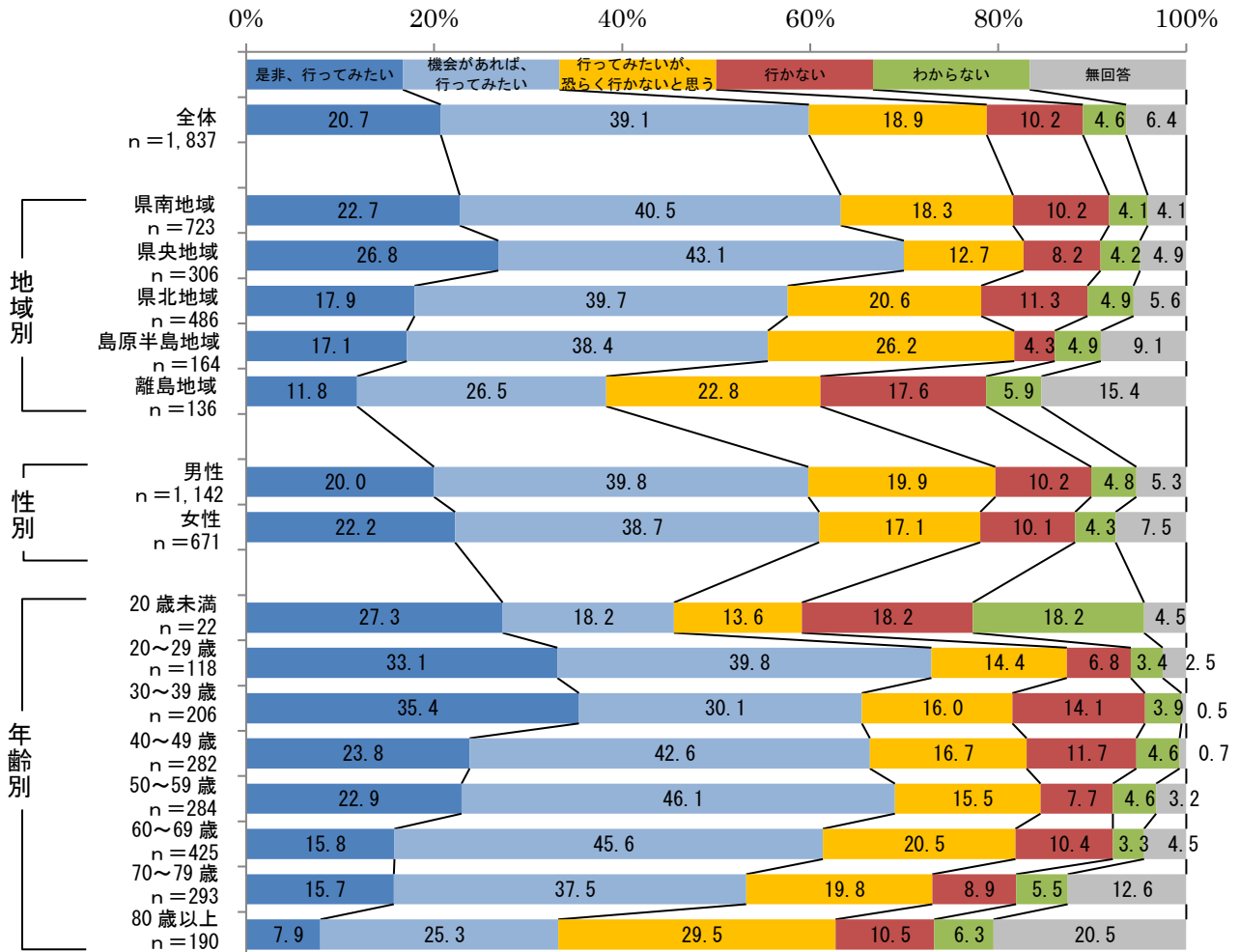


問 37

今後、あなたは県内の離島へ観光で行ってみたいと思いますか。(〇は1つ) また、選択したその理由と行ってみたい島をお聞かせください。(〇はいくつでも)

【調査結果 (ポイント)】

**県内離島の訪問意向は約6割**  
**訪問理由は「自然景観(海、山など)」・訪問したい島は「上五島」がトップ**



〔全体〕

離島への訪問意向は、「機会があれば、行ってみたい」が39.1%で最も多かった。訪問意向(「是非、行ってみたい」+「機会があれば、行ってみたい」)は59.8%となっている。

〔地域別〕

地域別での訪問意向は、県央地域が69.9%で最も高く、次いで県南地域・県北地域と続いており、「行かない」が最も多かったのは離島地域の17.6%となっている。

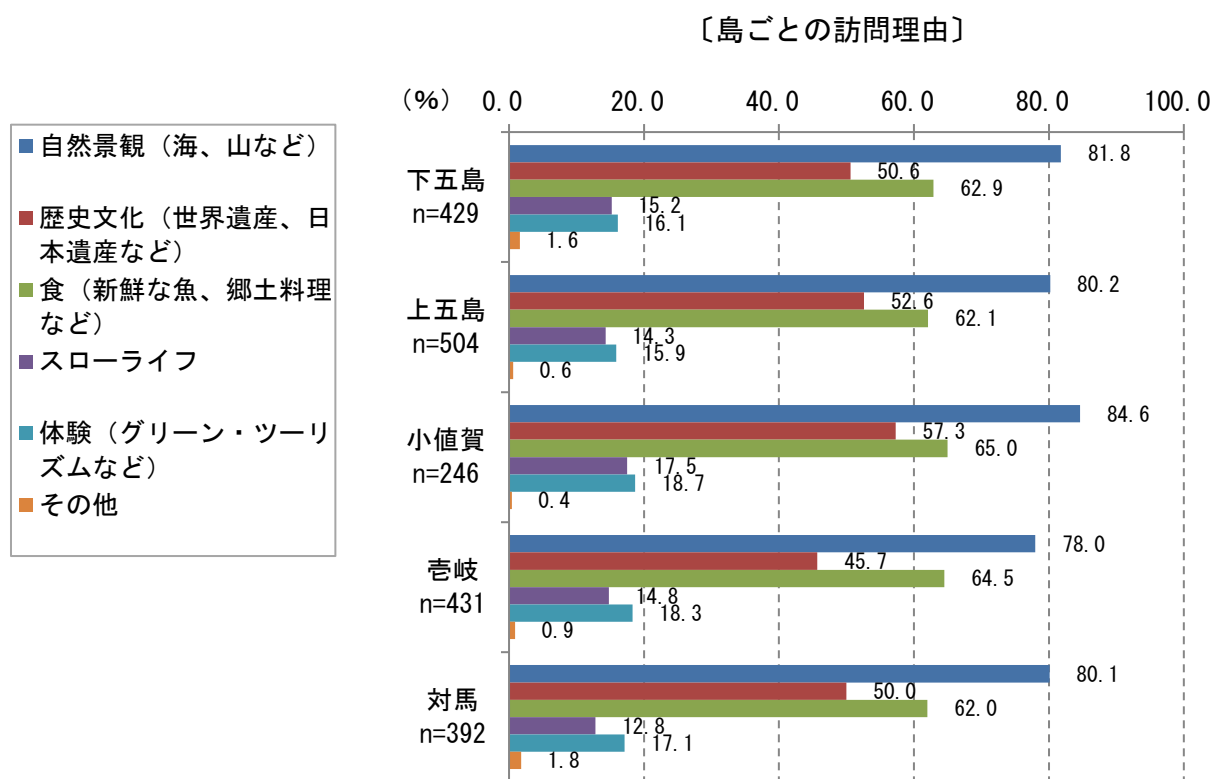
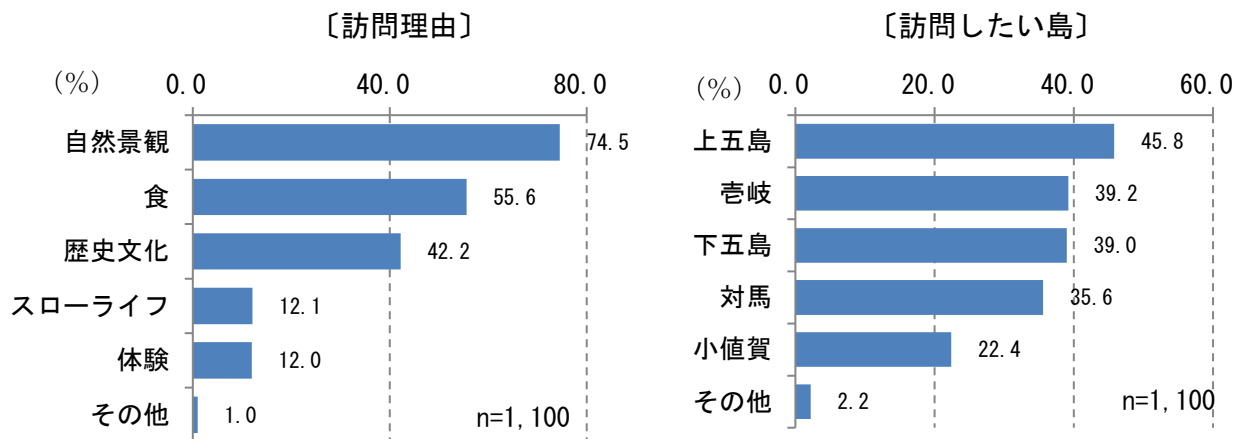
〔性別〕

性別で傾向の相違は見られない。

〔年齢別〕

年齢別での訪問意向は、20歳代が72.9%で最も高く、次いで50歳代、40歳代と続いている。一方、「行かない」が最も多かったのは20歳未満の18.2%となっている。

## 【訪問したい島と訪問理由】



### 〔全体〕

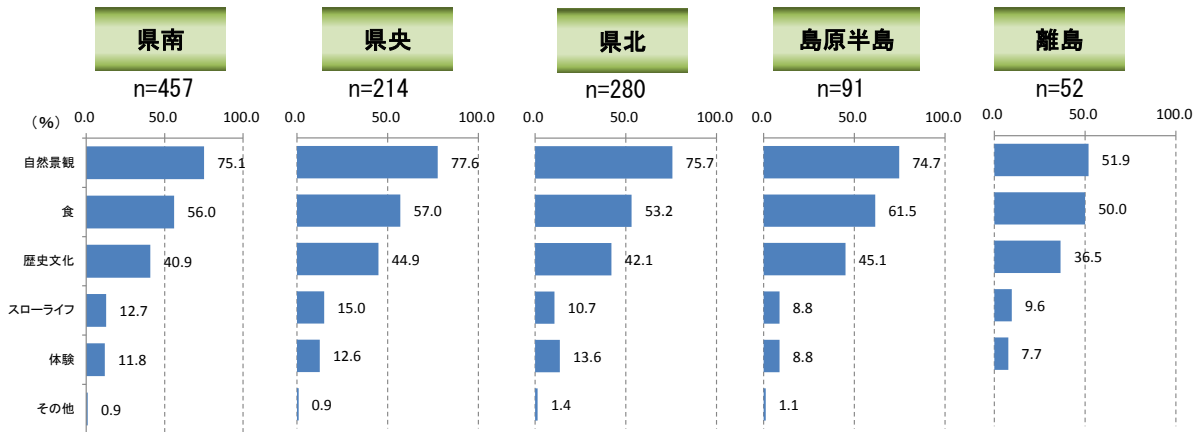
離島への訪問理由は、「自然景観（海、山など）」が74.5%で最も多く、次いで「食（新鮮な魚、郷土料理など）」「歴史文化（世界遺産、日本遺産など）」と続いている。行ってみたい島は、「上五島」が45.8%で最も多く、次いで「壱岐」「下五島」となっている。

また、訪問したい島ごとの訪問理由では全体との傾向に違いがある。

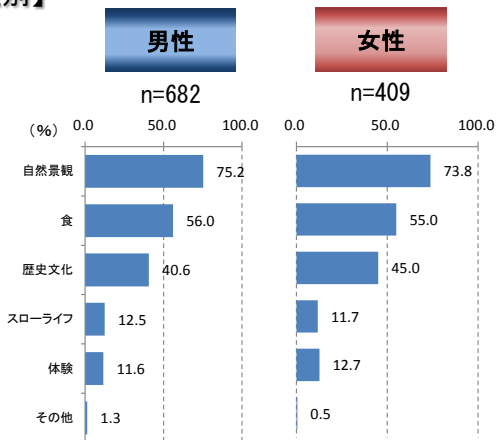
## 【訪問理由】

※地域別・性別の相違はなく、年齢別は母数が小さいため参考掲載

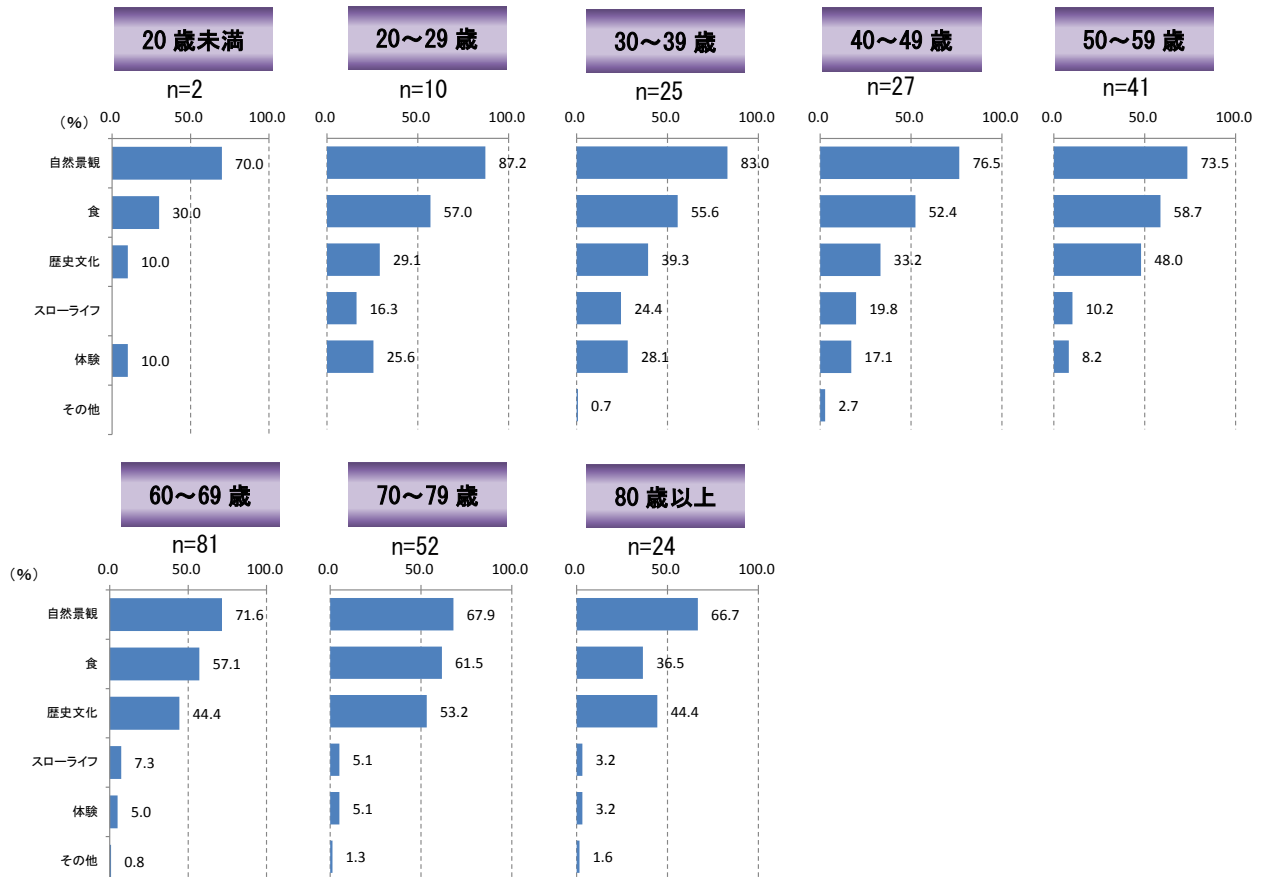
### 【地域別】



### 【性別】



### 【年齢別】

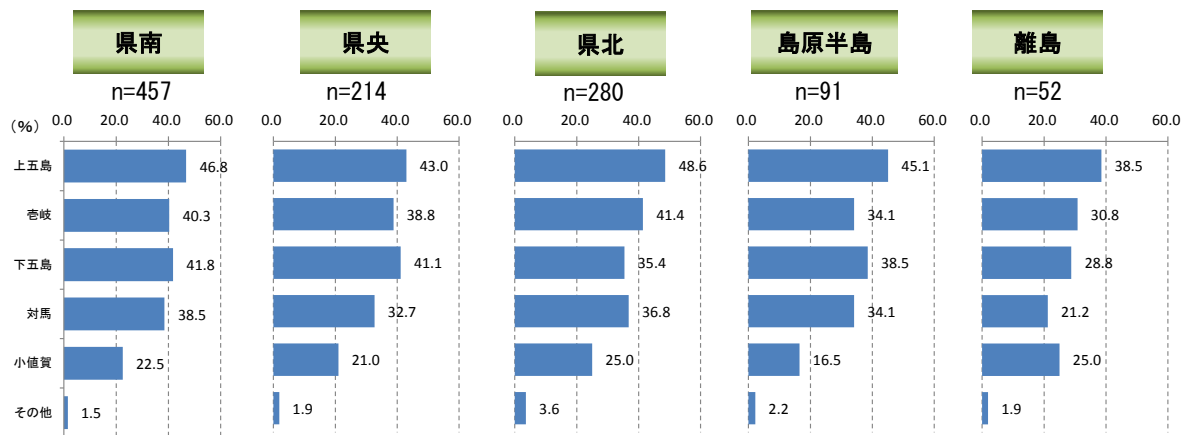




## 【訪問したい島】

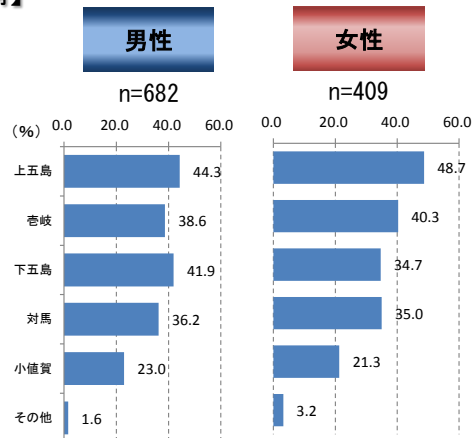
※年齢別は母数が小さいため参考掲載

### 【地域別】



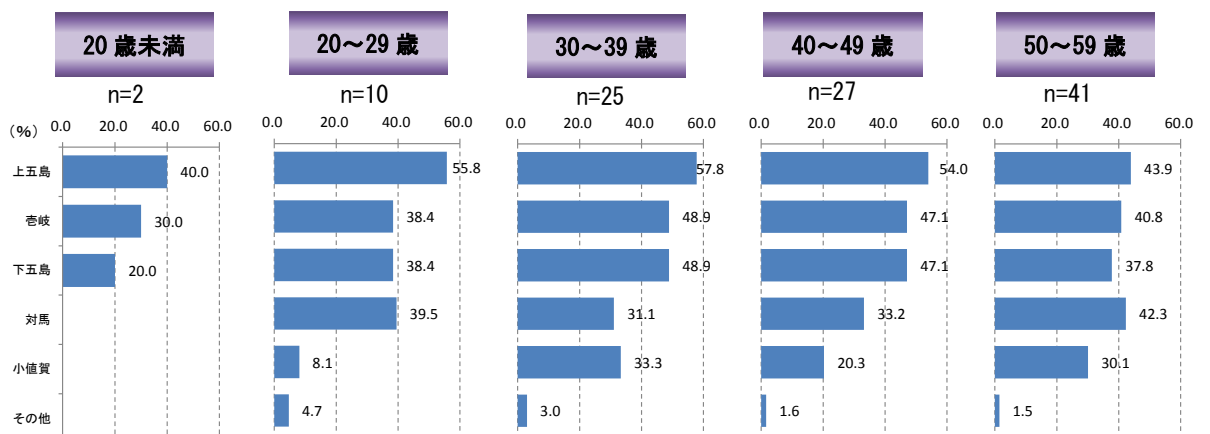
全体との相違は、県南地域・県央地域・島原半島地域は2位が「下五島」となり、県北地域は「対馬」が3位となっている。また、離島地域は「小値賀」が4位となっている。

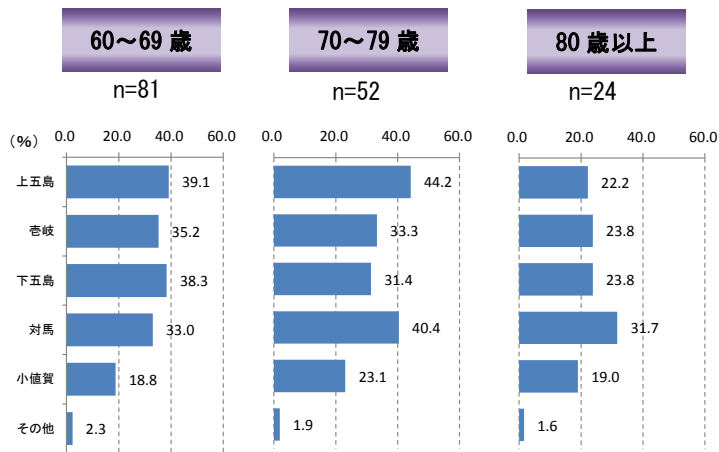
### 【性別】



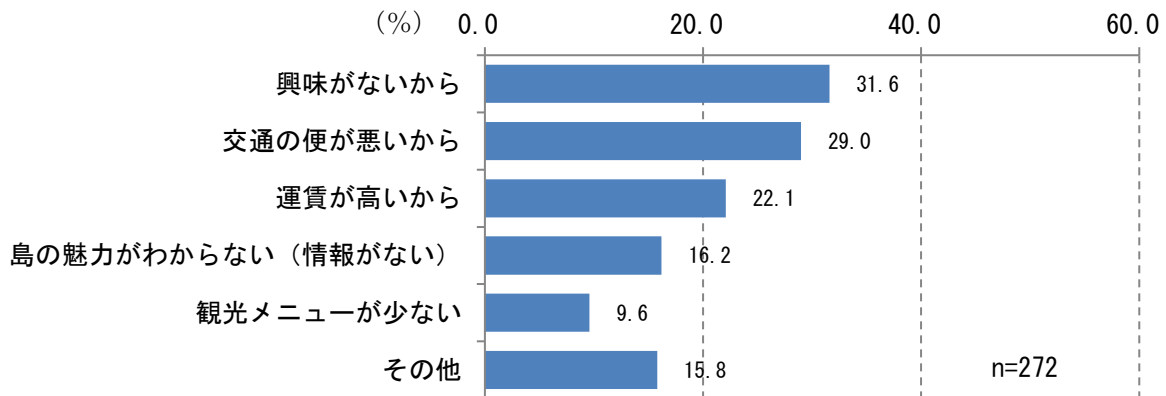
全体との相違は、男性は「下五島」が2位に、女性は3位が「対馬」となっている。

### 【年齢別】





### 【訪問しない理由】

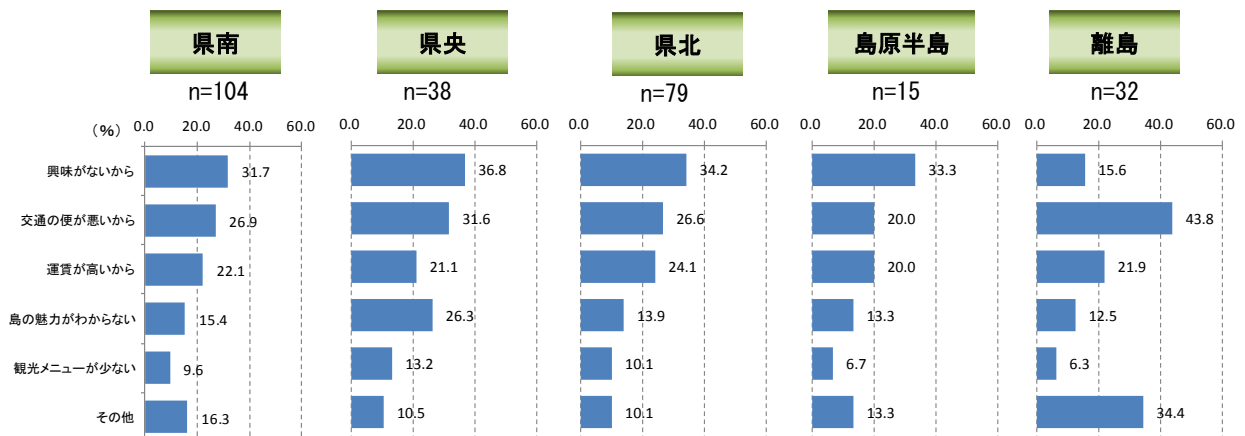


#### 〔全体〕

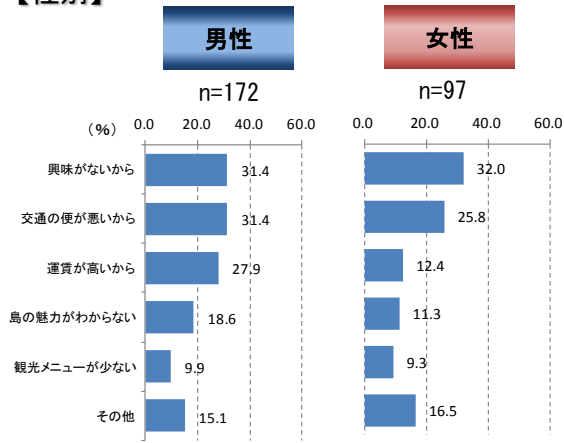
離島を訪問しない理由は、「興味がないから」が最も多く、次いで「交通の便が悪いから」「運賃が高いから」となっている。

※地域別・年齢別は母数が小さいため参考として掲載する。

### 【地域別】



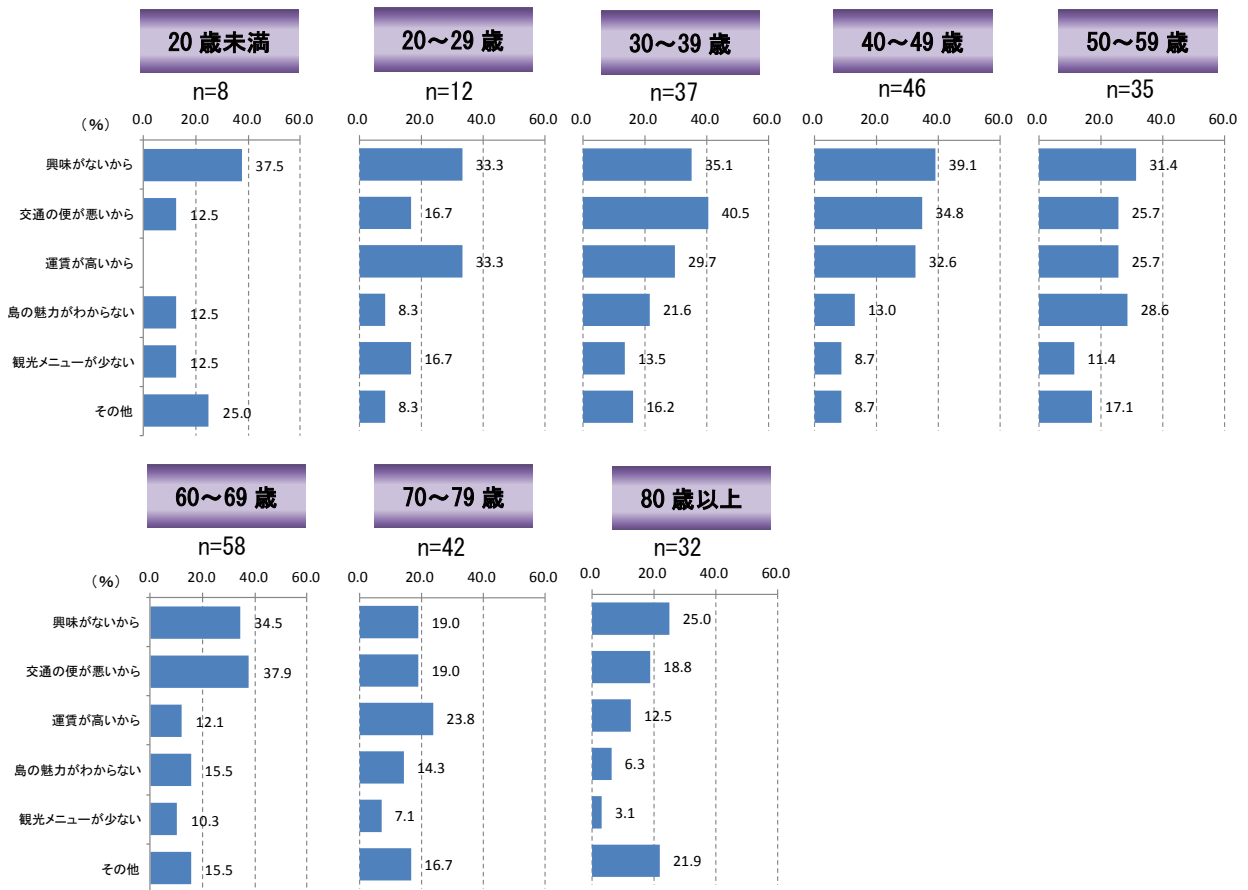
【性別】



〔性別〕

性別で傾向の相違は見られない。

【年齢別】

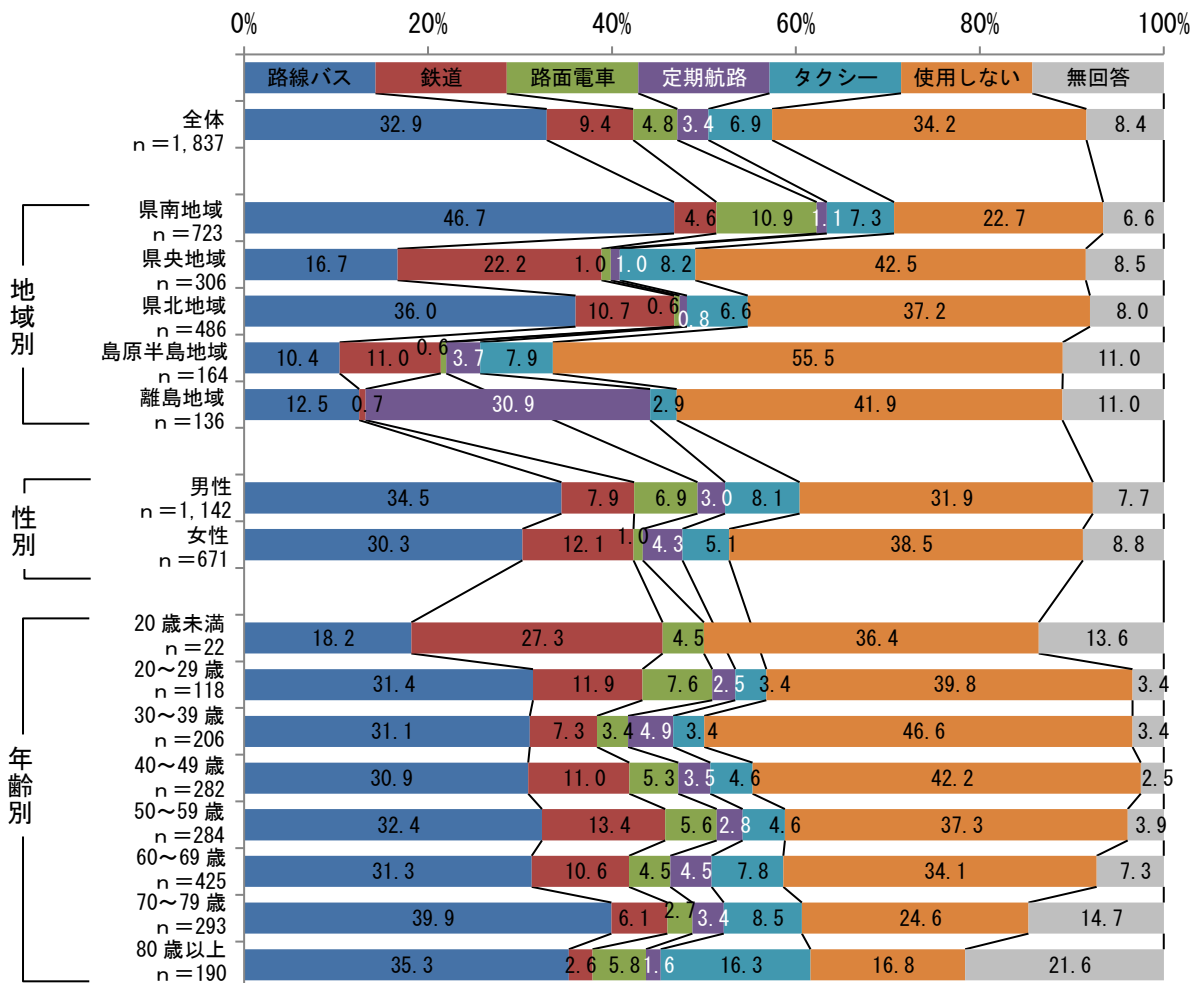


問 38

あなたが利用している主な公共交通機関についてお尋ねします。下のアの身近な地域の公共交通機関の中から選択し、イの利用頻度、ウでその公共交通機関の満足度をお答えください。(〇は1つ) また、満足度で「4. やや不満」「5. 不満」を選択した理由をお聞かせください。(〇は2つまで)

【調査結果 (ポイント)】

主な公共交通機関は「使用しない」約3割、利用時は「路線バス」がトップ  
 利用頻度は年に数回程度が約4割、「満足度」約2割・「不満度」約3割  
 不満理由は「ダイヤや便数が利用しにくい」が約7割でトップ



【全体】

主に利用する公共交通機関は、「使用しない」が34.2%で最も多く、次いで「路線バス」「鉄道」となっている。

【地域別】

地域別では地域主要交通機関の差による結果が表れている。全体との相違は県南地域は「路線バス」が1位、「路面電車」が3位となり、県央地域は「鉄道」が2位となっている。また、島原半島地域は「路線バス」が3位、「鉄道」が2位と順位が入れ替わり、離島地域では「定期航路」が30.9%で2位となっている。

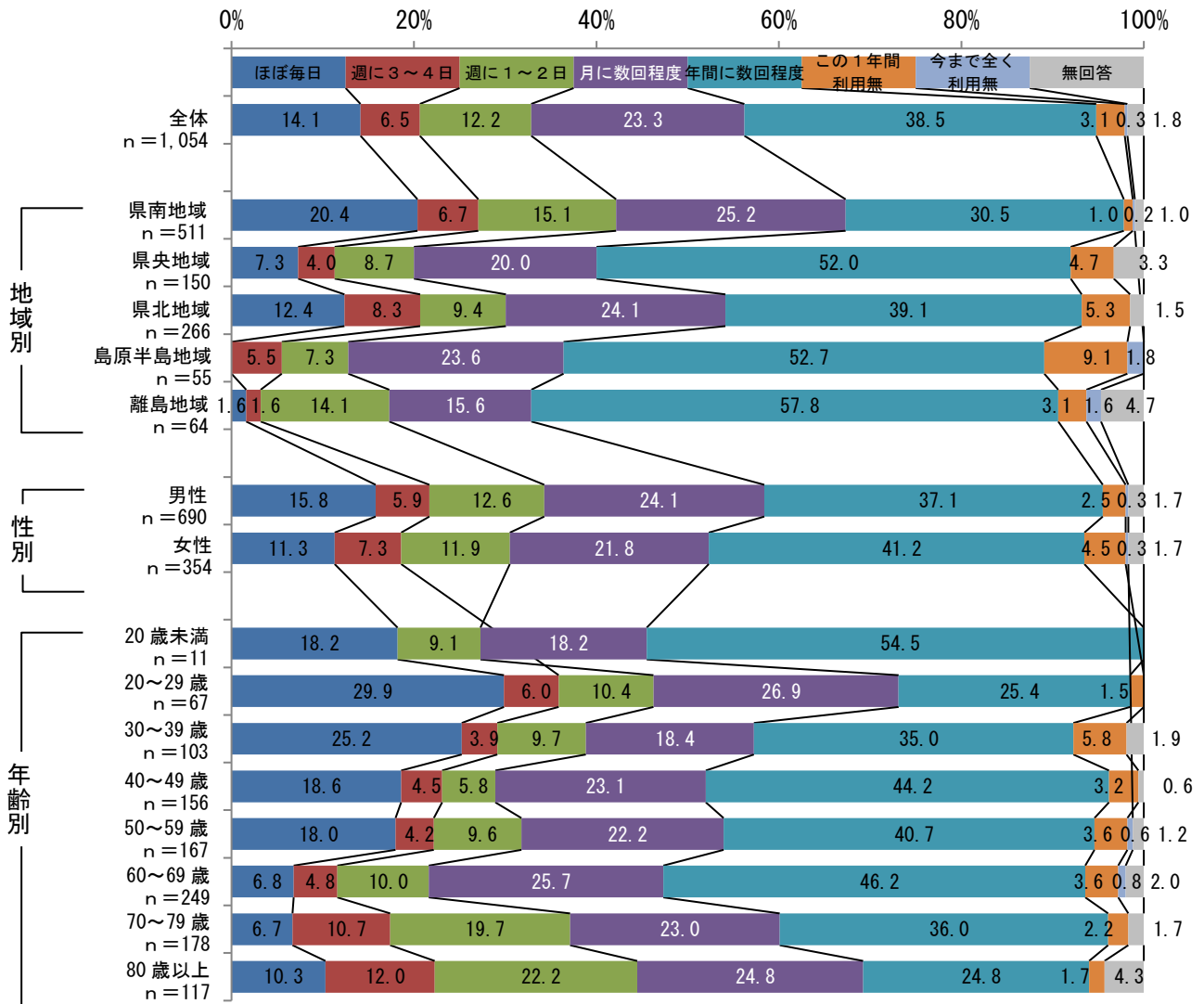
【性別】

性別での傾向の相違は、男性は「タクシー」が8.1%で3位となっている。また、「使用しない」では女性が6.6ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別では、年代の上昇とともに何らかの公共交通機関を使う割合が高くなっている。

## 【公共交通機関の利用頻度】



### 【全体】

公共交通機関の利用頻度は、「年に数回程度」が38.5%で最も多く、次いで「月に数回（1～2日）程度」「ほぼ毎日」となっている。

### 【地域別】

地域別での全体との相違は島原半島地域は「この1年間利用したことがない」が3位となり、離島地域は「週に1～2日程度」が3位、「この1年間利用したことがない」が4位となっている。

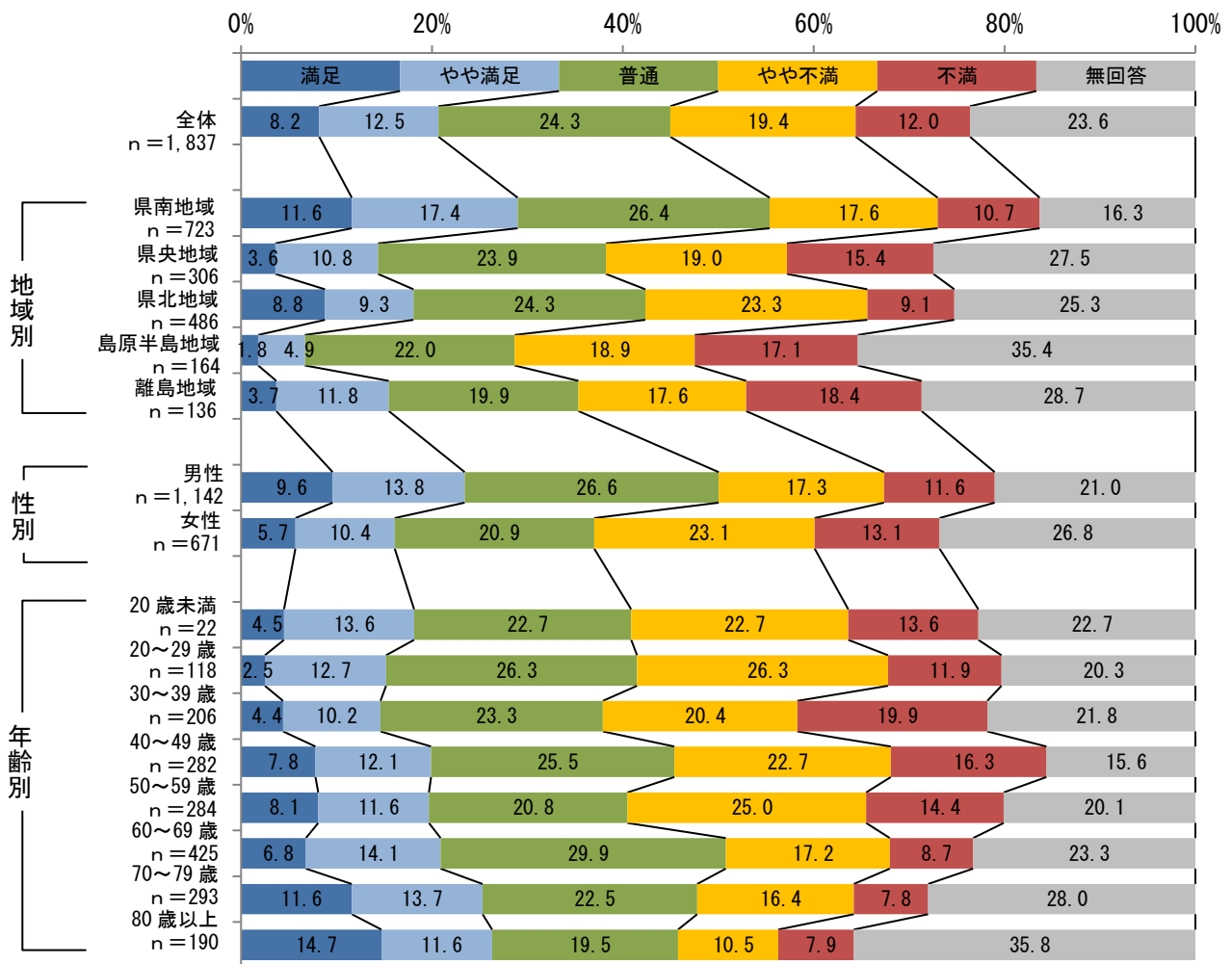
### 【性別】

性別での全体との傾向の相違は、女性が「ほぼ毎日」3位と「週に1～2日程度」4位が入れ替わっている。

### 【年齢別】

年齢別で、週1日以上（「ほぼ毎日」+「週に3～4日程度」+「週に1～2日程度」）の利用頻度が高いのは20歳代で46.3%であった、逆に最も利用頻度が低い（「今まで全く利用したことがない」+「この1年間利用したことがない」+「年に数回程度」）のは20歳未満の54.5%となっている。

## 【公共交通機関の利用満足度】



### 〔全体〕

公共交通機関の利用満足度は、「普通」が24.3%で最も多かった。満足度（「満足」+「やや満足」）は20.7%で不満度（「不満」+「やや不満」）は31.4%となり、不満度が少々上回っている。

### 〔地域別〕

地域別で満足度が最も高いのは、県南地域の29.0%で、最も低いのは島原半島地域の6.7%であり、不満度が最も高いのは島原半島地域・離島地域の36.0%であった。島原半島地域は満足度と不満度の乖離が29.3ポイントと大きくなっている。

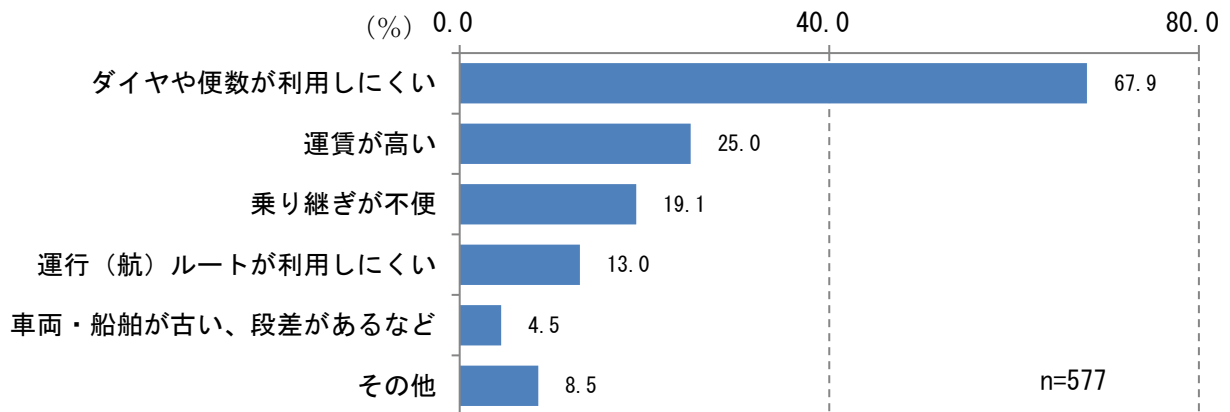
### 〔性別〕

性別での傾向の相違は見られないが、女性は満足度16.1%で男性よりも7.3ポイント低く、不満度は36.2%で男性よりも7.3ポイント高くなっている。

### 〔年齢別〕

年齢別では、年齢の上昇に伴い、満足度は高く、不満度は低くなる傾向が見られる。満足度は80歳以上が26.3%で最も高く、次いで70歳代、60歳代となっており、不満度は30歳代が40.3%で最も高く、次いで50歳代、40歳代となっている。

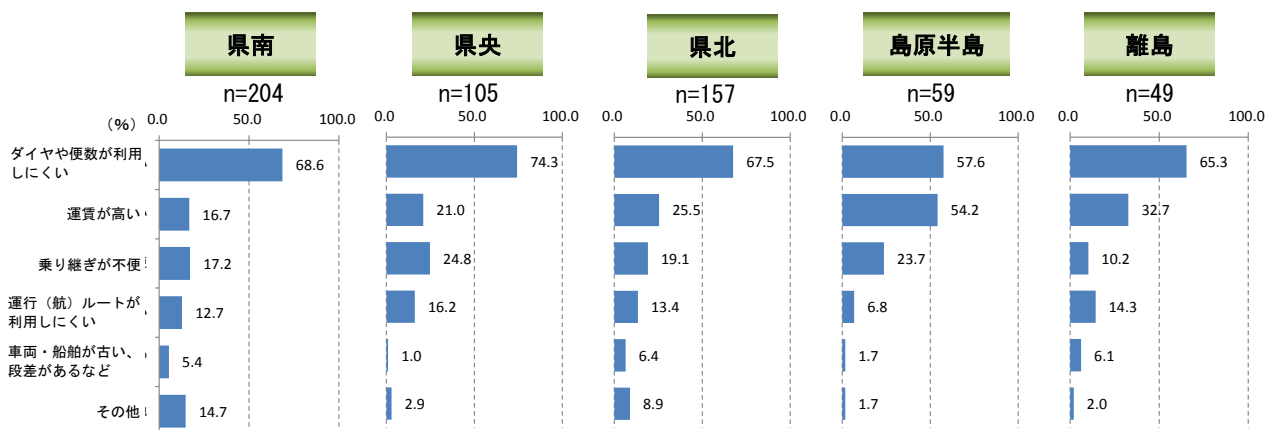
## 【不満理由】



### 〔全体〕

公共交通機関の利用の不満理由は、「ダイヤや便数が利用しにくい」が 67.9%で最も多く、次いで「運賃が高い」「乗り継ぎが不便」となっている。

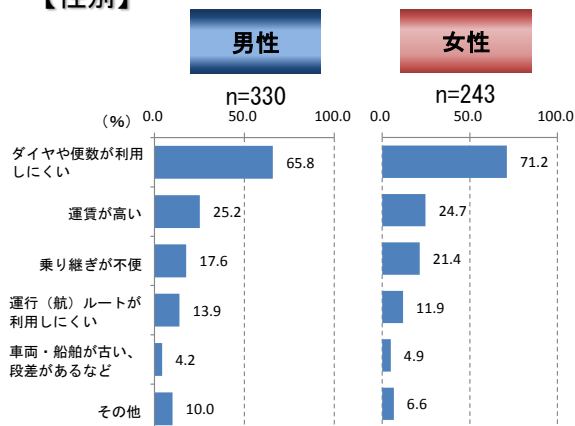
## 【地域別】



### 〔地域別〕

地域別で全体との傾向の相違が見られるのは、県南地域・県央地域は「乗り継ぎが不便」が 2 位となり、「運賃が高い」が 3 位となっている。離島地域では、「運行（航）ルートが利用しにくい」が 3 位となっている。

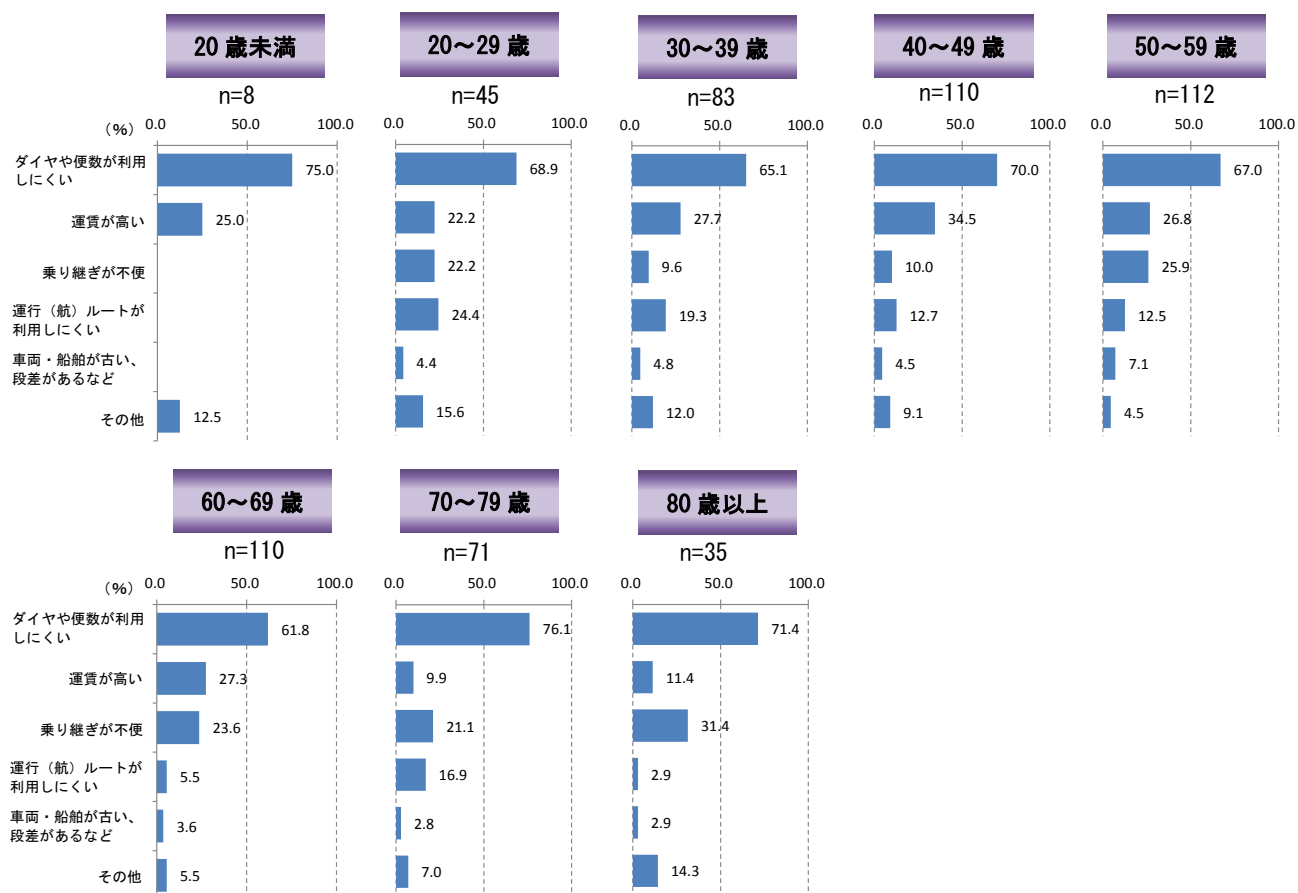
## 【性別】



### 〔性別〕

性別での傾向の相違は見られない。

## 【年齢別】



## 〔年齢別〕

年齢別での全体との傾向の相違は、20歳代は「運行（航）ルートが利用しにくい」が2位に上がり、30歳代・40歳代で「乗り継ぎが不便」が4位、「運行（航）ルートが利用しにくい」が3位と順位が入れ替わっている。また、「運賃が高い」が70歳代では4位に下がり、80歳以上では3位に下がっている。



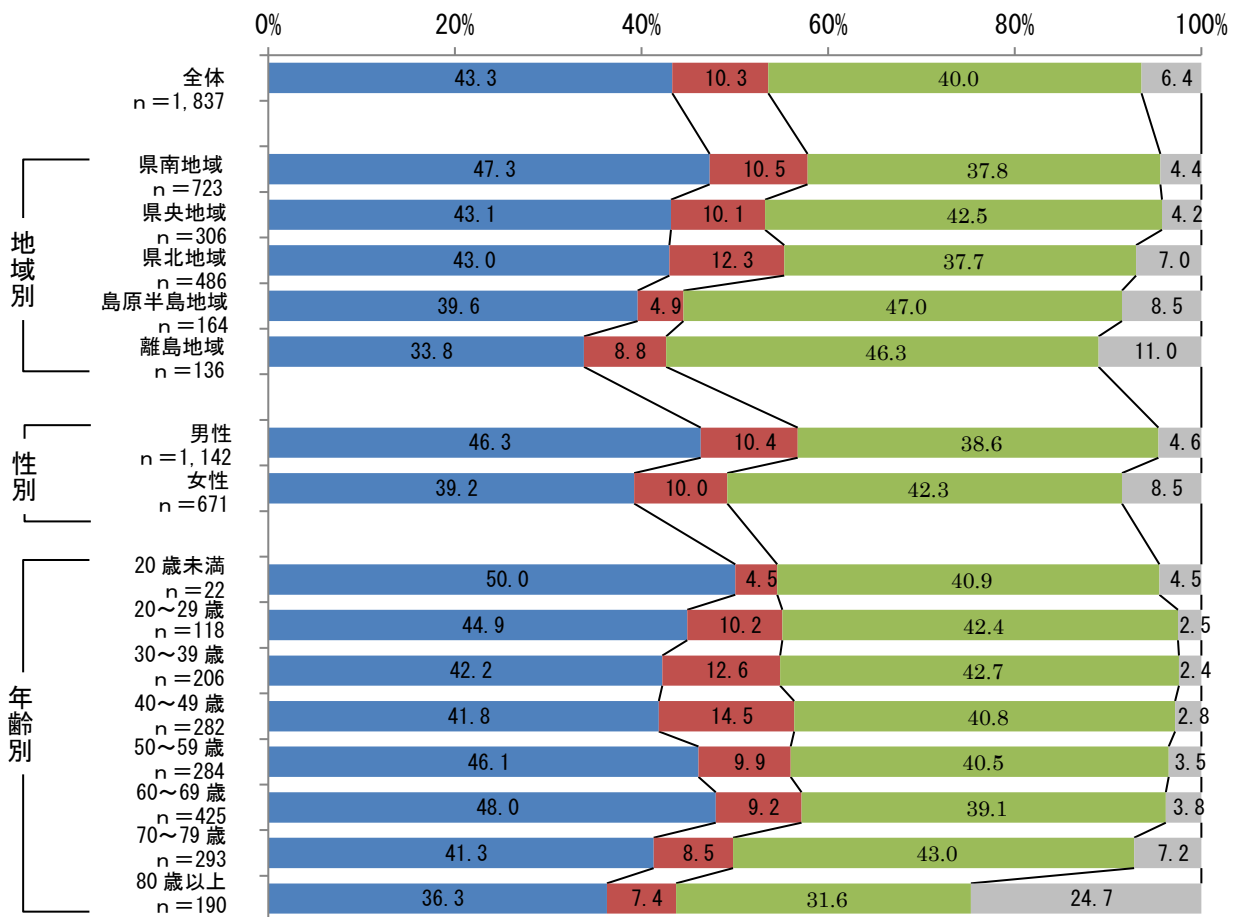
問 39

地球温暖化対策に関する取組のうち、より重要と考える取組は何ですか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

重要と考える取組は、「エネルギー (再生可能エネルギーの利用促進)」

- エネルギー (再生可能エネルギーの利用促進)
- しごと (エネルギー管理の徹底、省エネ設備の導入、エコドライブの推進等)
- 暮らし (電気自動車など次世代自動車の普及、照明のLED化、省エネ家電の普及、住宅の断熱化・省エネ性能の向上等)
- 無回答



【全体】

重要と考える取組は、「エネルギー (再生可能エネルギーの利用促進)」が43.3%で最も多く、次いで「暮らし (電気自動車など次世代自動車の普及、照明のLED化、省エネ家電の普及、住宅の断熱化・省エネ性能の向上等)」「しごと (エネルギー管理の徹底、省エネ設備の導入、エコドライブの推進等)」の順となっている。

【地域別】

地域別で全体との傾向の相違が見られるのは、島原半島地域・離島地域は「エネルギー」1位と「暮らし」2位が入れ替わっている。

【性別】

性別での全体との傾向の相違は、女性は「エネルギー」1位と「暮らし」2位が入れ替わっている。

【年齢別】

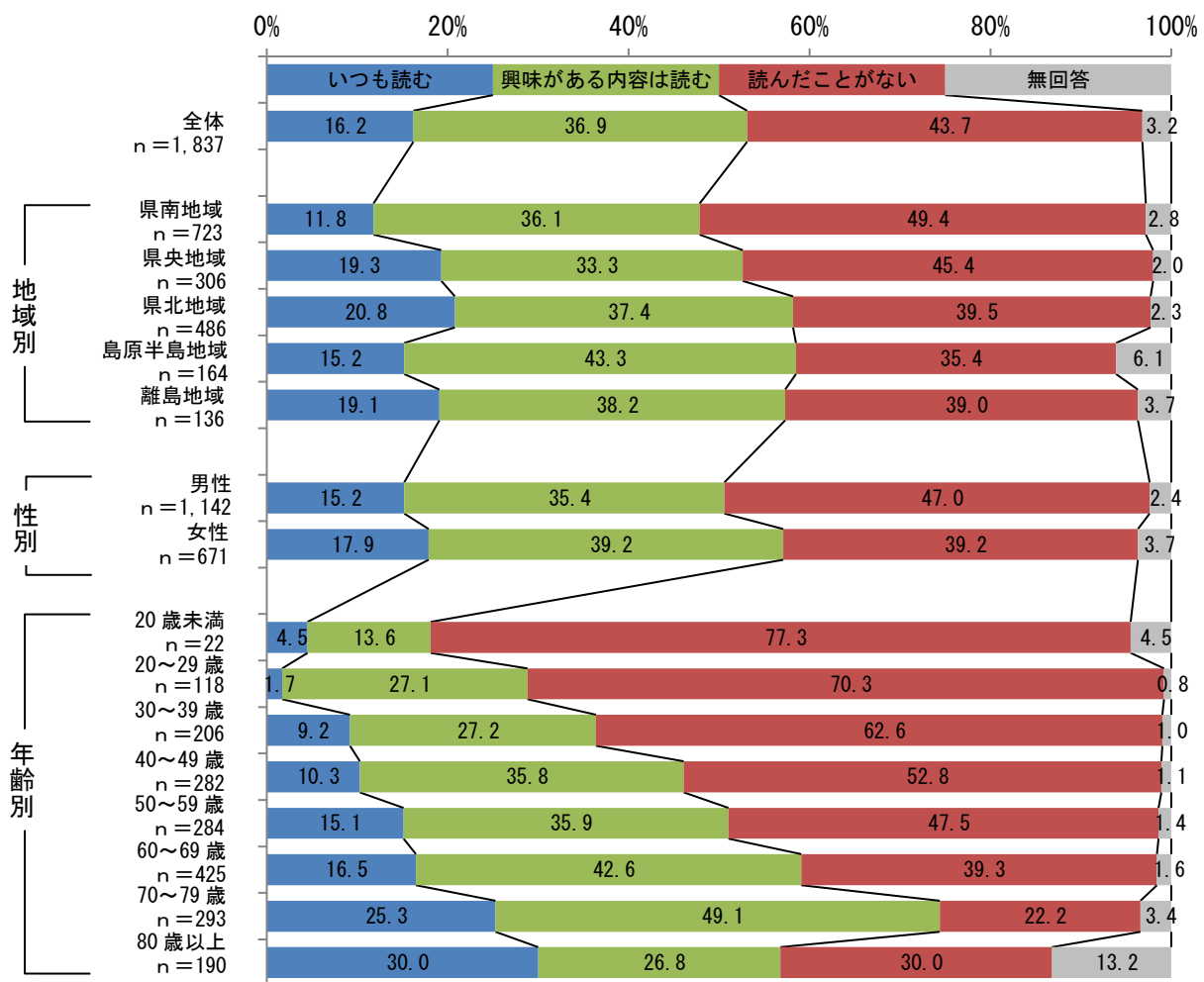
年齢別での全体との傾向の相違は、70歳代で「エネルギー」1位と「暮らし」2位が入れ替わっている。

問 40

あなたは、この1年間（2017年7月～2018年6月）に、県の広報誌『つたえる県ながさき』を読んだことがありますか。（○は1つ）

【調査結果（ポイント）】

県の広報誌『つたえる県ながさき』の読者は約5割



【全体】

県の広報誌は、「いつも読む」が16.2%と「興味がある内容は読む」が36.9%で53.1%となっている。53.1%の読者（「いつも読む」+「興味がある内容は読む」）がいることがうかがえる。

【地域別】

地域別で傾向の相違はないが、読者は島原半島地域が58.5%で最も多く、次いで県北地域・離島地域と続いている。

【性別】

性別での傾向の相違はないが、読者は女性が57.1%、男性は50.6%と女性が6.5ポイント高くなっている。

【年齢別】

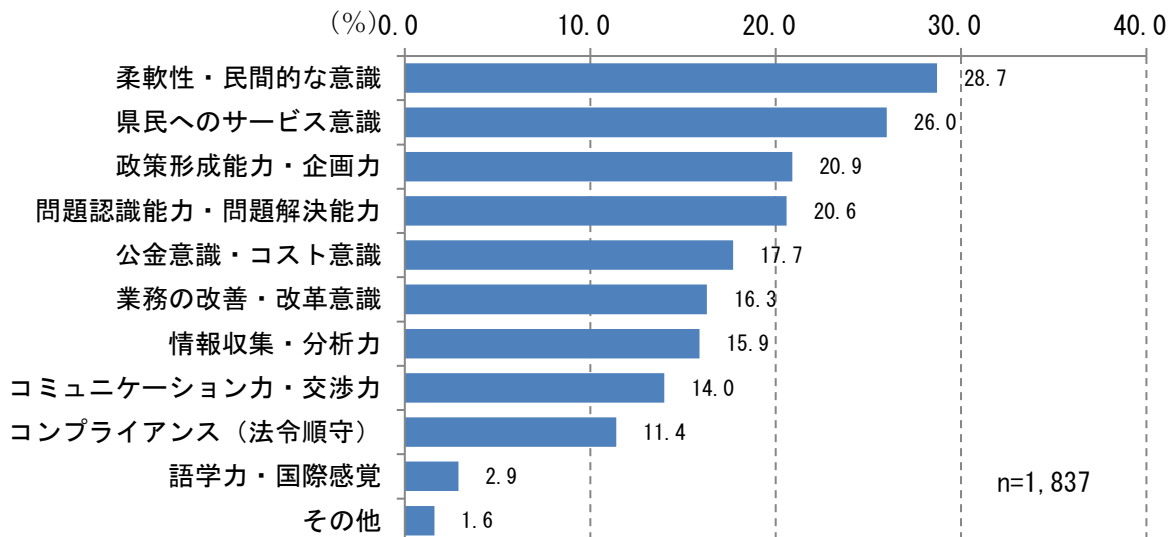
年齢別では年齢の上昇とともに、読者の割合が増える傾向があり、70歳代の74.4%が最も高く、20歳未満の18.1%が最も低くなっており、その乖離は56.3ポイントあった。

問  
41

あなたは、県の職員が持つべき意識や能力の中で、どれが重要だと思いますか。  
(〇は2つまで)

【調査結果（ポイント）】

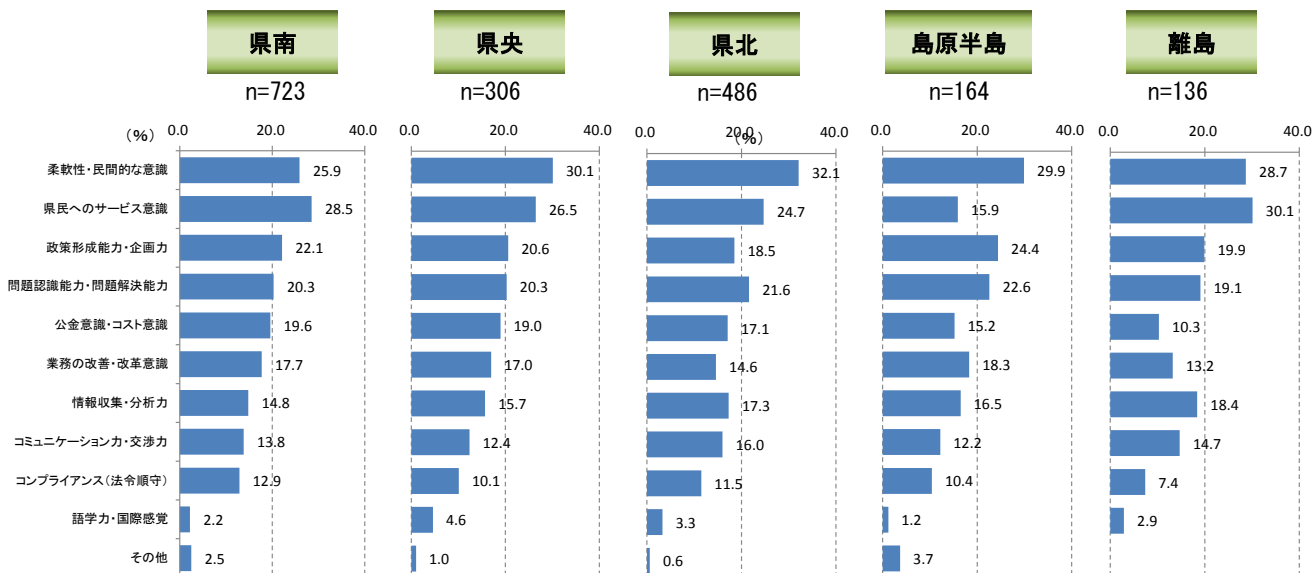
県の職員が持つべき意識や能力は、「柔軟性・民間的な意識」が約3割でトップ



〔全体〕

県の職員が持つべき意識や能力は、「柔軟性・民間的な意識」が28.7%で最も多く、次いで「県民へのサービス意識」「政策形成能力・企画力」と続いている。

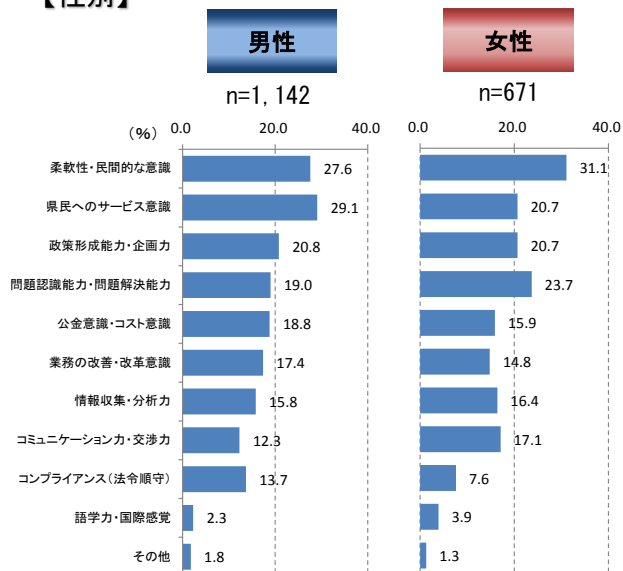
【地域別】



〔地域別〕

上位5項目で地域による相違が見られ、地域が求める職員が持つべき意識や能力が違っている。

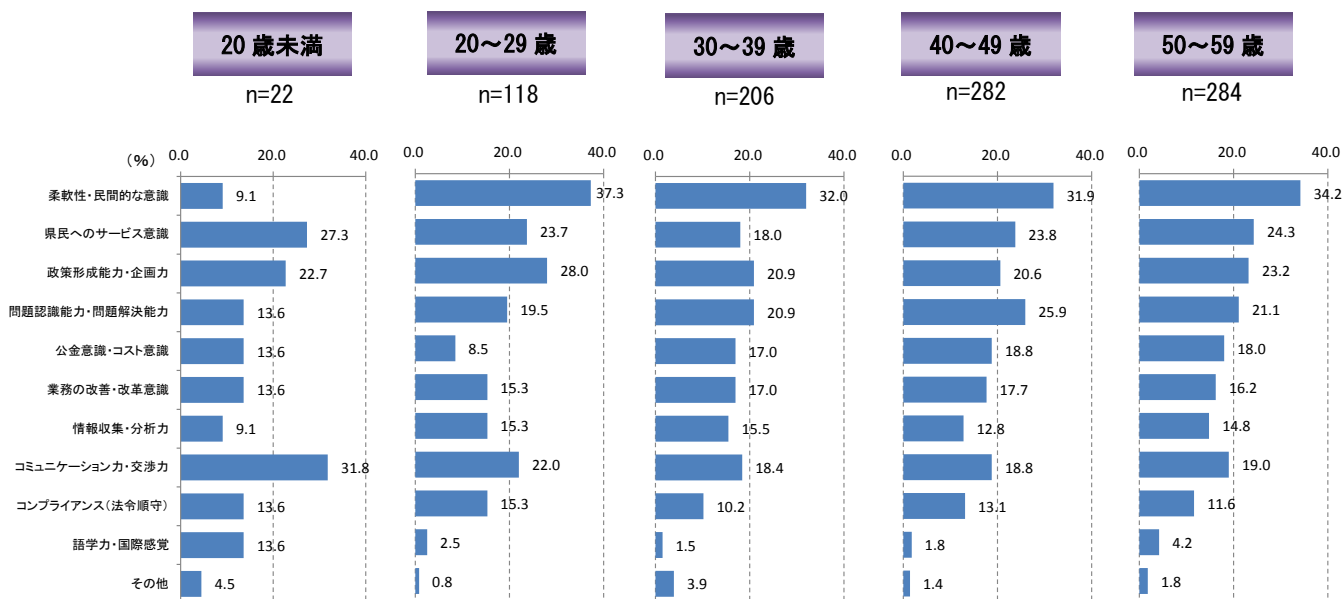
## 【性別】

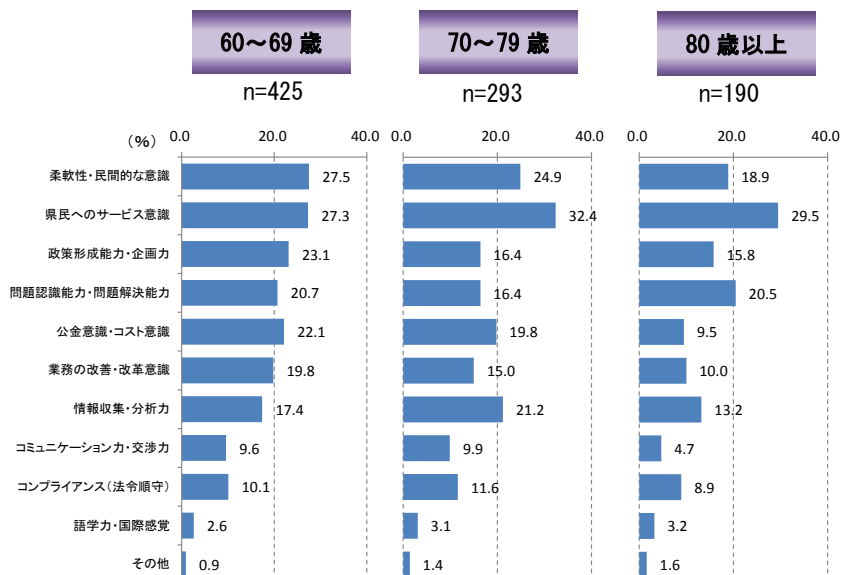


## 〔性別〕

上位5項目で性別による傾向の相違が見られるのは、男性は「県民へのサービス意識」が1位となり、女性は「問題認識能力・問題解決能力」が2位に上がっている。

## 【年齢別】





### 〔年齢別〕

上位5項目での年齢による傾向はやや異なっている。全体との大きな相違点は、20歳未満で8位の「コミュニケーション力・交渉力」が1位に上がり、1位の「柔軟性・民間的な意識」が9位に下がっている。70歳代は7位の「情報収集・分析力」が3位に上がっている。